

である。前以て組合に通知してをかねばならぬ。銚子の海岸の風光は、頗るよい。之を一巡するを磯子めぐりと云ふ。

(イ)飯沼觀世音

驛の東十二町。(俵賃三十錢)神龜元年僧徳道の開基。飯沼山圓福寺と號し眞言宗である。阪東二十七番の靈場である。

(ロ)川口明神

觀音から數町。大利根の江口銚子港の風光を大觀するに適してゐる。明神の下に千人塚がある。往古漁夫の溺死せる者千餘人を埋葬したので此名がある。側に砲臺の址がある。今は水難救濟會の救命砲が備へつけてある。こゝから南數町は女夫岬で怒濤靡り狂つてゐる。

(ハ)女夫岬の崖上に、無線電信局がある。(明治四十一年五月十六日開局)こゝから黒生浦(戊辰の後江戸を出奔した榎本武揚の率ゐた艦隊の中で美加保艦は、この海岸で難

破した。)伊勢地ヶ濱、君ヶ浦の海岸を通つて犬吠岬にゆく。

(ニ)犬吠岬

犬吠岬は、君ヶ濱(一名霧ヶ濱)の南數町、銚子驛から海岸へよらずにくれば一里半。自動車の便がある。(五十錢)一に石切鼻と云はれ、高さ二百四十呎、燈臺は、明治七年の建設、白色圓形の煉瓦造り高さ九丈、光芒能く十九哩に及ぶ。

(ホ)海水浴場

犬吠岬から砥石山をすぎると酉明の地で、こゝに海水浴の旅館がある。前は太平洋渺茫とし後ろの丘に翠松を帯んでゐる。旅館晚鷄館、御風館、吾妻



犬吠岬海水浴場



館等で、宿泊料は三圓以上。

(へ)名洗浦 南面に海を帯びた漁場で、銚子磯廻りの最終端である。右方山上に銚子三砲臺の一と云はれる砲臺の遺墟がある。(松平右京亮が海岸防備の爲めに築いたのである)屏風浦の奇勝がある。

犬吠海水浴場(西ノ濱)から佛ヶ浦、長崎浦(外川濱)に至ると、仙ヶ窟 犬若島がある。犬若には旅館に犬若館、仙窟館がせる。之より名洗浦へゆくことが出来る。

是から成田線の名勝を説明しやう。

### 宗吾靈堂

宗吾靈社へは佐倉(兩國橋驛より八十四錢)からもゆくことが出来る。佐倉で城址(徳川氏時代堀田氏の居城、今兵營になつてゐる)將門山の古城址を見て、臺地を下つて印旛沼

に沿うてゆくの、風光はよい。(二時間程)又成田線酒々井驛から二十町。けれ共、一番便利なのは、成田から電車でゆくのである。(往復十九錢)義民木内宗吾の事蹟は今更ら語る迄もなく、世人既知のことである。宗吾の靈を祀つたので、參詣人は頗る多い。(今の堂は明治四十三年火災にかゝつて全焼したのち再建したのである。)

### 成田不動

成田の町は、不動尊あるが故に繁盛してゐるのである。上野驛からも、兩國橋驛からも成田行きの列車が出る。兩國橋驛から二時間十分(一圓四十錢)驛から不動尊迄十五町、門前迄電車が通じてゐる(往復五錢)。本尊は、弘法大師の作で、山城高雄山神護寺の護摩堂の本尊(長六尺)であつた。天慶の亂の時、朱雀帝は、寛朝僧正に此像を持たしめて難波津から海路此地に至り、亂平定を祈らしめた。亂平定後、寛朝はこの像を持つて都へ歸らうとしたが、像が重くて持ち上らず且つ夢の告げもあつたので、其儘こゝに安置し、神



護新勝寺と云ふに至つたのであると云はれる。

不動尊は今や俗信の的となつてゐて、収入は大變なもので、成田中學や高等女學校は、この御不動さん（新勝寺）の經營である。不動さんは、詳しくは不動明王と云ひ、眞言で祭る五大明王（不動、降三世、軍荼利、大成德、金剛夜叉）中の中央尊で、大日如來の化身で、外道惡魔を降伏して下さる佛である。

町の名物は、栗羊羹、大煎餅、旅館は、海老屋、小川屋、若松本店其他數十軒ある。

### 印幡沼

酒々井驛の北七町。印旛郡の大沼で、沿岸の低地は概ね、墾耕せられ、今水面は二方に満たぬが、古くは、利根大江の入江であつた。平素水深三尺以上の所はない。初夏から晩秋に亘る夕べ、沼一面に螢火の如き微光を發する現象がある。土人は亡者の影火と云ふておる。

### 手賀沼

布佐驛（上野驛より七十四錢）の南西五町、東西三里、南北一里、餘水は、布佐木下の間から利根川に落ちてゐる。關東屈指の遊獵地である。

### 三里塚牧場

成田から日歸り遠足に適してゐる。宮内省所轄の大牧場で、大陸的の風光に接すること出来る。櫻も種類が多い。若しも千葉縣營鐵道を利用すれば、成田から三里塚迄僅かに五十分（二十錢）で達する。

櫻見物丈けでも、わざわざ東京からゆく丈けの價値がある。日歸りで十分である。

### 滑川



滑川驛（一圓二十四錢）より七町に滑川觀音堂がある。仁王門は飛彈の工匠の作と云はれてる。又驛より二十二町に小御門神社がある。元弘の忠臣藤原師賢公を祀つてある。別格官幣社である。例祭は四月二十九日。師賢公は、後醍醐帝無二の忠臣、王政復古の大業に盡力した功は多かつたにも關らず時利あらず、敗殘の身を東の配所に終られた。奮闘た報ひられず悲しみの一生は、聴くたに涙の種である。

## 佐原

佐原は、利根大江に臨みし一名邑、銚子へ十里、木下へ十二里。香取詣うでの人は、是非此驛でおりなければならぬ、香取詣で丈けならば、日歸りで十分である。

佐原驛（兩國橋驛より三時間十五分一圓四十四錢）より十五町許りの所に、觀福寺がある地理學の大家伊能忠敬の墓がある。佐原の伊能家に、忠敬の遺物が保存せられておる。

## 香取神宮

佐原驛の東三十二町。（東北鹿島と相距る三里。）俵賃五十錢。鹿島と共に、關東最古の神で祭神は經津主命官幣大社である。香取が潮來へ出て、鹿島へ御詣りし、土浦へ出て歸京するには、二日の旅びには詭へ向きである。

青山東西南の三面を圍みて、五峯の山と呼び其中央龜甲の丘に本宮が鎮座まし／＼ておる。今の社殿は、元祿中將軍綱吉の造築したものである。社後崖上にある香雲館からの眺めは絶佳である。

例祭は四月十四日、又五月五日には、早乙女、樂人等行列を整へて、齋田に行つて田を植る御田植祭りがある。

神代の昔、高天原におはしました天照大神は、天穗日命を出雲の國に遣して國土献上の命令を傳へしめた。所が天穗日命は、出雲の主大國主神（素盞鳴尊の御子）に媚つ



いて三年たつても復命せられない。天照大神は次ぎに天稚彦を遣したが、又歸つてこない。そこで三度目に出雲へ御遣しになつたのが、武甕槌神と經津主神とであつたこの二神は無事に使をはたし、大國主神は出神國を高天原に献上した。後二神は、東國へ御出でになつて、開拓をせられた。

### 潮 來

佐原から、和船（五十錢）又は汽船（二十錢）で、潮來へのゆく。所謂潮來十六島の上にある漁村で、今も猶、往昔の歡樂郷の名残をとどめておる。夏秋の頃は別して水郷の情趣豊かである。佐原から潮來へ約一時間、潮來から鹿島へ一時間。潮來から土浦へ約四時間（五十二錢）土浦迄霞ヶ浦の航行は、風光頗る愛すべきものがある。潮來も今は、昔程の盛りはなく、妓樓も僅か二軒しかない。「潮來出島の眞孤の中で、菖蒲咲くとはしほらしや」の唄は普く人口に膾炙しておる。



太 平 洋 鹿 島 灘

### 鹿島神宮

汽船又は、和船は、大船津でとまる。大船津から神宮迄十八町。（俵賃四十錢）

大船津銚子間汽船賃……………六十五錢

大船津土浦間汽船賃……………五十六錢

大船津佐原間汽船賃……………二十七錢

祭神は武甕槌の命で、創立は、香取と共に神武帝の御世と云はれておる。藤原氏全盛の時は、香取、鹿島枚岡の神を奈良の春日神社に祀り氏神として尊崇した。後世武家は皆武神として之を崇めた。

社境は、三笠山と云はれてゐる。今の社殿は元和



年間徳川秀忠の造立である。本官から東四町に奥宮、そこから坂を二町下ると鹿島七不思議の一御手洗池がある。又奥宮の後ろ一町に、要石がある。此地下に大魚がゐて、其頭をくさびした爲めに、この地方には地震がないと云ふ傳説がある。

社境を出で、數町、高天原（一面の大砂原）へ出る。そこから數町で鹿島灘へ出る。大怒濤の猛り狂ふ様は壯觀である。鹿島の南一里高松村には文化村の設けがある。別莊地としてよい。

余は嘗て、鹿島灘に沿うて歩いて銚子へ出たことがあるが、午前十時頃に出て、銚子へついたのは、夜の七時頃であつた。

旅館は、神宮前と、大船津にある。宿泊料二圓位。

### 息 栖

佐原から約三里半。鹿島宮仲（神宮のある所）から二里半。西方の對岸は、小見川の町

である。息栖神社は、息栖明神と云ひ、氣吹土主命を祀り鹿島の攝社である。香取鹿島と共に東國の三社と云はれてゐた。

.....

葦原や天照る神のみことを受けてくに平けし神ぞこの神 吉 田 兼 好  
明くれば五月のついたち、空晴れたり、つとめて鹿島の神宮に詣づ、御社のさまいと  
神々しく木だかき松杉はいくばくの年を経にけん、いと古りにふりて、さるをがせ枝に  
垂れたり、こゝら紅の花の見ゆるは庭つゝじなりけり、猶春おほえて盛りなり  
あられふり鹿島が崎の杉いはひそめしは神つ御代かも 春 海  
かしまねに神さてる松が枝の日蔭のかづらかけて世ぞ 千 蔭



## 房 總 線

### 寒川海水浴場

本千葉驛（兩國橋驛より六十一錢）の西南五町。遠淺であるからして、婦女子の游泳にも適してゐる。

### 小弓御所址

蘇我驛（兩國橋驛より六十六錢）の東十五町。近世は森川氏一萬石の陣屋地であつた。戦國の頃足利義明こゝにより、小弓御所と稱した。安房の里見氏が、小弓御所の公方を援けて北條の軍と國府臺で戦つたことは有名な話である。

### 五井濱の魚獵

五井驛から十二三町で海岸に達する。海は遠淺。君塚か魚健の主人に頼んで、網を打つはいと興味深い。三月から十月迄が絶好の時期である。黒ダイ、カイス、イナ、セイゴ、キス、イカなどがとれる。生き／＼した魚を料理して食ふは一興である。魚健へ頼めば一人前三圓見當で、舟の代から料理代迄すべてひつくるめて）まかなつてくれる。

### 八 鶴 湖

兩國驛より東金驛迄一圓四錢。驛の附近には、八鶴湖（周廻半里、風光頗るよい）本漸寺、西福寺、本國寺（日蓮宗の巨刹）東金城址等見るべきものが多い。

### 片貝海水浴場



片貝は、九十九里の中央部、海は遠浅で、女子供らにも少しも危険がない。家族向き學  
生向きの避暑地である。東金驛から二里十町。馬車賃三十五錢。

旅館は、三四あるが、此地でホントに遊ぼうと思ふ人は、民家の間借りをするのであ  
る。六疊で一ヶ月六圓位と云ふ低廉である。物價もやすい。俗化してゐないことが何より  
も嬉しい。しかも日常生活に必要なものは何んでもまにあふ。

片貝(九十九里一帯に)の大漁歌

- 一ツトセ 一番袋に極め込んで朝から晩迄背負揚る 濱大漁ダネー
- 二ツトセ 二ツ並べた此袋トツラが大かる賄さん 濱大漁ダネー
- 三ツトセ 皆なが出て見ろ此網に掛けたる鯛は逃しやせぬ 濱大漁ダネー
- 四ツトセ 四ツや五ツの子供衆がゼニカネ福貴に弄ぶ 濱大漁ダネー
- 五ツトセ 何時來て見ても磯印あれこそタの字の大漁網 濱大漁ダネー
- 六ツトセ 無理な浪風潮早デモ沖合さんが見たのは無理はない 濱大漁ダネー

- 七ツトセ 浪もなければ風もないトロく逆潮で色鯛 濱大漁ダネー
- 八ツトセ 矢鱈無勝に漁りが來て繩立薙が間に合はぬ 濱大漁ダネー
- 九ツトセ 玆等あたりは皆干鯛納屋にも庫にも積み餘る 濱大漁ダネー
- 十ヲトセ 處の龍神御利益は千兩萬兩引揚ける 濱大漁ダネー
- 十一トセ 十一日は潮變り鯨鱈交りの大鯛 濱大漁ダネー
- 十二トセ 十二船玉寶船七福神の船遊び 濱大漁ダネー
- 十三トセ 十三三四の子供等も浚ひを手につ干鯛寄せ 濱大漁ダネー

茂原

茂原驛(兩國橋驛より一圓十四錢)の西三里に笠森寺がある。上總屈指の名刹であり、  
懸崖の上に觀音堂がある。この堂は、特別保護建造物である。一見の價値は十分にある。驛  
の西十町に日蓮の高弟日向上人開墓の藻原寺がある。



## 上總一ノ宮

一ノ宮は、元加納氏の城下で、繁華の町である。海水浴地避暑地として知られてゐる。房總の大磯と云はれる位に有名であり設備も整つてゐるが、今では俗氣紛々として、中産階級のものには適しない。土地の人情も宜しくない。

一ノ宮河口は海に近く、海水浴旅館がある。青松館、一ノ宮館清風館等が有名である。玉前神社（式内の古社で、鎌倉時代武門崇敬の的となつてゐた）觀明寺（天平年中行基菩薩の開創と云はれておる）等見るべきものがある。

## 太東海水浴場

太東は、九十九里南端の海水浴場で、其絶端の太東岬は、遙かに犬吠岬と相對し、怒濤終日男性的である。太東館は、この壯觀をほしいままにすることが出来る。飯繩寺、般若

寺と云ふ天臺の古刹がある。（兩國驛より太東驛迄一圓三十六錢）

## 長者町海水浴

長者町驛（兩國橋驛より一圓四十錢）の東南十五町。（傳賃四十錢）旅館は太平クラブ、梅本屋、宿泊料二圓以上、初秋の頃満月を浴びて海水にひたるのを清興とせられてゐる。大原迄一里半。

## 大原海水浴

大原は一ノ宮と共に、房總海岸屈指の海水浴場である。海水浴場は大原驛（兩國驛より一圓四十六錢）から七町。小濱と云ふ海岸にある。風光雄大。旅館には、帆萬千館、翠松館、松濤館等がある。八幡岬の壯景、大聖寺不動堂（名匠建田番匠の手になつたのである）がある。一ノ宮と違つて物價も割合にやすいし、人情も素朴でよい。



暇あらば、こゝから人車軌道へ乗つて、大河内氏二萬石の舊城下大多喜町へいつてみるもよい。丘陵の中にあつて、町として特色のある所である。

### 御定海水浴場

網代灣に臨む海水浴場であり、沿岸一帯に白砂青松連つておる、旅館は、千歳屋、東屋小川屋、植野屋、夷隅屋等。兩國驛より一圓五十七錢。

### 勝 浦

勝浦驛（兩國橋驛より四時間二十五分を要す、三等一圓六十三錢）から六町にして、海岸に達する。海岸は櫛濱と云ふて風光絶佳である。遠見岬神社、轟臺等を見るべき所ぞかし。旅館は勝浦館、幸前、一文字屋等で、宿泊料二圓以上。

### 日蓮遺蹟廻り

東京からでは一泊旅行でなければいけない。勝浦から「おせんころがし」の勝をへて、小湊迄四里。乗合自働車で五十分（一圓五十錢）馬車で二時間（八十錢）。

小湊には、誕生寺がある。日蓮上人誕生の地である。小湊の海濱は、妙の浦と云はれ、昔から鯛の漁獲を禁じてある。

小湊から天津迄一里十町の間は、馬車自働車の便がある。天津から清澄山の清澄寺迄十町餘。清澄寺の西方の一岩石の上に朝日堂がある。日蓮が旭に向つて「南無妙法蓮華經」を唱へた所である。又天津から二里、鳴川へゆく途中に、日蓮上人四大法難の一である小松原法難の聖護寺がある。

私は清澄山（寺の門前に旅館がある）から、久留里迄歩いたことがあつたが、夫れは氣持のよい道であつた。東京を出發した日は、清澄に泊まり、翌日久留里迄歩いて汽車に乗



つて歸京する案は面白くと思ふ。

江見附見

江見村大字吉浦には太夫崎の洞と稱せらるゝ海岸の岩窟あり。窟内行くに随つて狭く、何人も其奥を究めたる者なし。傳へ曰ふ、往時一駿馬ありて、驕驚捕へ難く、馬遂に奔逸して此洞内に隠れて出でず。時に頼朝の臣此地を過ぎり、洞窟の附近に馬蹄あるを見て、洞内を探りて駿馬を捕へ、之れを頼朝に献ぜり。義經が鴨越の險を越えし際は此駿馬に騎し居たるなりと。太海村には上の瀧、波太島あり。後者は海上一町許に在る巉崑の島にして、島中平野を姓とする家一戸あり。頼朝が石橋山に敗れて安房に逃れし時、仁右衛門なる者、頼朝を其家に隠せり。頼朝の志を得るや、此島を受領し、子孫相繼ぎて今日に至れり。里人島を別稱して仁右衛門島と云ふ。(日本漫遊案内)

北條線

八幡宿海水浴場

八幡宿驛(兩國橋より七十六錢)で下車すれば、數町にして、袖ヶ浦海水浴場である。遠淺である。飯香岡八幡宮は社殿壯麗、あらたかな神である。境内に陰陽舎抱の大公孫樹がある。

旅館は、おづまや、八幡ホテル等。

木更津

上總西岸第一の繁華地。海岸は遠淺で海水浴に適し、風光も頗るよい。木更津案内云ふ。



地名の起源 日本武尊東夷御征討の御時相模より上總に涉らんとし給ひしに海上俄かに颶風に逢ひ御船方に覆らんとす、此時に當り尊の寵姫弟橋媛身を以て尊に代らんとし遂に海に投じて此危難を救ふ事を得たり於是乎、尊御上陸の日媛の末路を悲みて止まず、  
縋々の情この地を去るに忍び給はざりしと傳ふ、不知讀人の歌に曰く、

木美狭良津袖下海丹立浪之衣之面陰遠見衣悲

史的事實の如何を問はず、弟橋媛の猷身的行爲は遂に此地を詩化して「君不去」と云ひ又之れが爲めに袖しが浦、戀の森の名稱をも産み出して「君不去」は今日「木更津」と呼ぶに至れりとぞ。

變遷 往古の木更津は今の太田山の麓にあり波打寄する處、長汀曲浦蘆荻の茂るに任せし一の漁村に過ぎずして古事記、萬葉等の誌す處に依れば當時此地方は總べて馬來田國造の管轄地たりしが如し、爾來物變り星移りて足利氏時代には已に菅生の庄岐佐良津郷と呼び爲して里見氏之れを領する事百二十餘年天正十八年里見氏削封の後徳川氏の采邑

に歸せり、それより以降世々代官の知行を受けて明治維新始めて政府の所轄に移る。則ち同元年戊辰七月より上總安房知縣事（同年己巳二月宮谷縣と改稱す）の管下に屬し、同月十三日櫻井藩に轉ず、同四年辛未七月廢藩置縣の舉ありて其年十一月更に木更津縣と改稱し同時に縣廳を置かる。同六年癸酉六月本縣廢止と共に今の千葉縣に轉じ、同十一年十一月木更津、吾妻の二村聯合して戸長役場を置き、同年九月更に貝淵村を加へ十二年四月以上の三村を合併して新たに木更津町と改稱せらる。町の西北端宇吾妻に吾妻神社（吾妻權現とも）がある。弟橋媛命を祀る。

### 新舞子濱

佐貫驛（兩國橋驛より一圓四十四錢）より十三町。海水浴場である。設備も段々と整つてくる。



## 鹿野山

佐貫驛の東方二里、内一里は人力車の便がある。(木更津からもゆける。四里半。山麓迄馬車人力車の便がある。)鹿野山は、眺望の雄大な山で、山中に神野寺がある。一古刹である寺の彼方に九十九谷がある。上總の丘陵起伏を双眸におさめることが出来る。山上には叻々館其他二三の旅館がある。水もよく蚊もいす避暑地としては絶好である。

山頂から、鬼涙山をへて、上總湊迄下る道は頗る趣味がある。行程二里半。草山で道に迷ふ憂ひはない。(鹿野山は、千二百餘尺)

## 上總湊

湊町(兩國橋より一圓四十八錢)は、海濱にあり、風光に富み、海水浴に適してゐる。驛の南一里十五町ばかりの所に萩生の黄金井がある。所謂光藻で、辨天窟の黄金の井と云

ふて古くかち知られておる。

## 濱金谷

濱金谷驛(兩國橋より一圓六十一錢)は、鋸山の山麓にあり、三十分で鋸山の頂上に達する。此地又海水浴地である。間借りして一夏を送るには詠へ向きである。

## 保田海水浴場

兩國橋驛より保田驛迄三時間十四分、一圓六十五錢。驛より二町にして海水浴場がある。保養地として詠へ向きである。松音樓、保榮館等何れも、宿泊料二圓以上、平民黨には詠へ向きである。

この驛より鋸山山麓迄十七町。麓徒歩二十町にして一〇六九尺の絶頂に達する。(十州一覽臺)中復に日本寺がある。聖武帝の勅願寺で、行基菩薩の草創である。



房州は、館山北條は俗化し、人情もわるすれがして、實に不愉快である、保田あたりは、マダ素朴である。泊つてゐて氣持がよい。間借りをしても極めて廉い。  
新選名勝地誌云ふ。

鋸山 房總二國を限る高峰にして高さ海拔一千八百八十一尺、保田村及び上總國金谷村に跨る。その形狀、山骨露はにして半腹以上は分れて數峰となり、轟々たる山勢遠く之を望めば、宛ら天に向つて鋸齒を列ねたるが如し、その名の所以なり。保田村大字元名（上總國）より登れば、三十三町にして山頂に至る。山の西麓は明金岬といひて、突几たる巉岩海中に斗出す、安房西街道は此の懸崖をめぐりて、金谷及び元名に通ず。その間一里弱、狂濤の時に岸を襲ふありて、危険甚しと雖、眺望の壯偉、對岸の連山、破濤を越えて悠々その影を連ぬ。傳説によれば、此岬頭に一の隠れ岩あり。頼朝の石橋山に敗れて安房に遁るゝや、こゝに敵兵の追撃をさけたりといふ。されど波濤の狂暴なる、それかと思ふ岩穴も已に破られ跡を止めず、岩礁の千態萬狀、自然の奇形は推して知るべき

なり。山中に日本寺ありて内を公園に供せり。登山者は東京灣汽船會社の船によりて、金谷に上陸すれば麓まで約一里なり。保田よりすれば二十町弱にして至る。保田には旅舎數軒あり。

日本寺 加知山を距る一里二十町、山麓保田よりすれば登路二十町。寺は鋸山の中腹に位す。先づ仁王門を入り、右に海中出現の鐘を見て、大悲堂に至る、かくて右すれば石階あり。上に藥師如來安置の本堂、閻魔堂あり。左すれば僧舍石壘の上に在りて、舎前に達磨石あり。之を過ぐれば大黒堂、開山堂あり。前者の崖下に吞海樓あり、南方房州の海岸より、岬灣及び島嶼の點景悉く掌中に在り。傍に龜石あり。開山堂より本堂の背後に出で、登れば、蛙石、白骨堂、鷲岩、日牌堂、獅子岩、本尊無漏窟、薛羅洞、弘法大師讓摩窟等は途上にあり。又白布泉と稱する瀑布、羅漢像、觀言像、不動尊像等相並ぶ。通天門、三峰門等をくゞり、鷲翼山 又當寺の三峰、日輪、月輪、瑠璃は最も眺望の佳きを得たる所にして、瑠璃山上には十州一覽臺あり。安房、相模、駿河、甲斐、信



濃、下野、常陸、武藏、上總、下總等の山岳は一々指點して一望に收むるを得べし。寺は、聖武天皇の敕によりて、行基僧正の草創せし禪刹にして、僧正自ら一刀三禮の藥師像及び日光月光兩尊十二神等を刻して之を安置し、已に堂塔伽藍の壯麗を極め、神龜二年六月供養の式を擧ぐ、後良辨僧正、藥師救世の泉を穿ち加持水となす。今寺の溪に湧出せる泉之なり。弘法大師はこゝに護摩を修する事百日、大黒天の石像を刻して之を残す。天安元年には慈覺大師暫く錫を止めて阿彌陀、觀音の二像を刻す。今大悲堂に安ず高倉院の御宇源賴朝當地に來り、後年志を得て、一座頽廢に歸する伽藍を再興し、貞和元年には足利尊氏の修補あり。戰國の間再び荒廢せしを安永三年第九世の愚傳和尚、伽藍を建立し、附近岩石一千を以て羅漢像となす。今又四度の廢頽に在り。唯公園、望洋の地として絶勝たるのみ。麓なる保田村大字元名に元名の霸王樹といふものあり。高さ一丈餘、莖の廣さ一丈なり。

### 高崎鑛泉

岩井驛（兩國橋驛より千葉驛迄五十九錢）（千葉より一圓二十四錢）より十町（俵賃三十錢。海岸にあつて波靜か、夏は海水浴も兼ねられる。亞留加里性鹽類泉で、透明微臭、神經痛、皮膚病婦人病に効がある。八犬傳で名高い富山迄僅かに二十七町。旅館は、湯本館、清涼館で宿泊料は、一圓五十錢以上。俗化してゐないのが何より嬉しい。

### 安房勝山

兩國橋驛より三時二十分。一圓六十九錢。灣内左に龍島灣、口に浮島あり風景絶佳。海水浴場である。旅館は、稻松樓、沼平樓、秋山旅館。

### 那古船形





安房館山の絶勝

那古も船形も共に、海邊の風光に富み、海水浴場である。那古（阪東三十三ヶ所の一、頼朝の建てた仁王門三重塔がある）船形共に観音様がある。賽者頗る多い。（兩國橋驛より那古船形驛迄一圓八十四錢）

### 安房北條

汐入川を隔て、北條と館山の町が連つてゐる。房州第一の繁華の地で、共に鏡ヶ浦の一灣を擁し風光絶佳である。（附近に一高、高師等の水泳場がある）避暑避寒地として好適當だが、惜しむらくは、俗化し、人情も悪化した。旅館は木村屋、吉野庵、其他

宿料も高い。（兩國橋驛より北條迄一圓九十錢）毎年夏季避暑客の數は一萬人に達する。

### 里見城址

九重驛（兩國橋驛より一圓九十七錢）より三町。戦國の頃房總に割據して、小田原北條と戦つて屈しなかつた里見氏の城址で、附近に里見氏の菩提寺遠命寺がある。

### 千倉鑛泉

千倉驛（兩國橋驛より一圓三錢）にある。最近設備を急いでをる。鐵道開通以來有名になつた。

### 南三原

南三原は外房にあり太平洋に面した地で、波濤の大きいので有名である。附近から鮑伊



勢海老がとれる。旅館などの設備は不十分だが間借して、一夏を送るには誂へ向きである。驛より一里にして行基菩薩開創と云はるゝ古刹石堂寺がある。

## 江見

北條線の終點である。(千葉驛より一圓七十四錢)避暑地としては好適當である。江見から、鴨川、天津をへて、勝浦迄は、マダ鐵道が敷設されてゐないが、馬車又は自動車で聯絡することが出来る。(最近鐵道は太海迄開通した。)

外房一帯は、宿料がやすく、一圓五十錢位で泊めてくれる。平民的の旅行には誂へ向きである。

## 安房神社

北條驛より二里餘(馬車賃五十錢、俵賃一圓)官幣大社で、天太玉命を祀つてある。社は三面山、西方に海を控へ、風光頗るよい。

館山から洲ノ崎に至る海岸の風光は絶佳である。是非一度は杖を曳く可きである。

## 布良

北條より三里。布良岬の西南端にある村で、瀬候所があり、又少しゆくと根本海水浴場がある。設備はよくないが旅館もある。極めて低廉である。

## 野島ヶ崎燈臺

館山より布良をへて四里。俵の便もあるが、風光を味ふには、是非共歩かなければならぬ。燈臺は、今を距る五十數年前佛人の設計したもので、光茫四十海里。白濱は、海水浴地として又避寒地として、好適當である。物價も頗るやすい。



又この地は、嘉吉の役後、里見義實が始めて安房國に入つた所で、城址、館址、義實、義成の墳墓のある菩提所杖珠院がある。白濱から海岸を傳うて、南三原迄歩いて見るも面白い。

.....

館山より海上半里に在る周圍六七丁の小岩島にして、島上には松柏繁茂せる間に辨天祠あり。沖の島は鷹の島の西北十丁許の小島なり。龍伏の松は館山の西一里に在り汐見夜雨是なり。これより西十數丁には、濱田の洞穴あり。これ往昔大蛇の棲みし跡なりと傳へらるるまた濱田の西見物村に鉦切明神あり。祠の後なる巨巖は、恰も利刀を以て切りしが如く、頂上より底まで二尺許の間隙を有す。里人はこれ太古に神の鉦もて切りし跡と言ふ。洲の崎は、恰も東京灣の咽喉をなし三浦三崎と相對す。風景絶佳なり。

(日本漫遊案内)

## 東武本線

——兩毛線——

### 西新井大師

西新井驛(淺草驛より十九錢)より七町。總持寺五智山遍照院と號し、新義真言宗、慶安年間に幕府から朱印二十石を賜つた。本尊は弘法大師作で厄除大師と云はれて、信者頗る多い、護摩堂の傍に大師が加持水に用ゐたと云ふ加持水の井がある。萬病にきく靈藥だと云ふて、參詣者は持つて歸る。附近には、料理屋がある。(緣日は毎月二十日)こゝから櫻の名所荒川堤へ十二町。東北本線赤羽か、然らずば、千住迄歩いて見るも面白い。

### 大相模不動尊



蒲生驛（淺草驛より三十七錢）より三十町（俵及馬車の便がある）奈良東大寺、良辨僧正の開創で、生不動又は賊除不動と云はれ、毎年二月二十八日、九月四日の御會式には、人死がある位の雑沓である。

歸りに安行へ立より（驛より三十町）十分に野趣を味ふも一興。この村は、一村悉く、苗木を業としておる珍らしい所である。安行から川口町へ歩くもよい。（一里。乗合馬車もある。）

### 越ヶ谷の梅と桃

越ヶ谷驛（淺草驛より四十一錢）より三町、古利根の清流を挟んで十數町の區域に亘つて、梅林桃林がある。一寸一杯やるに適した旗亭もある。

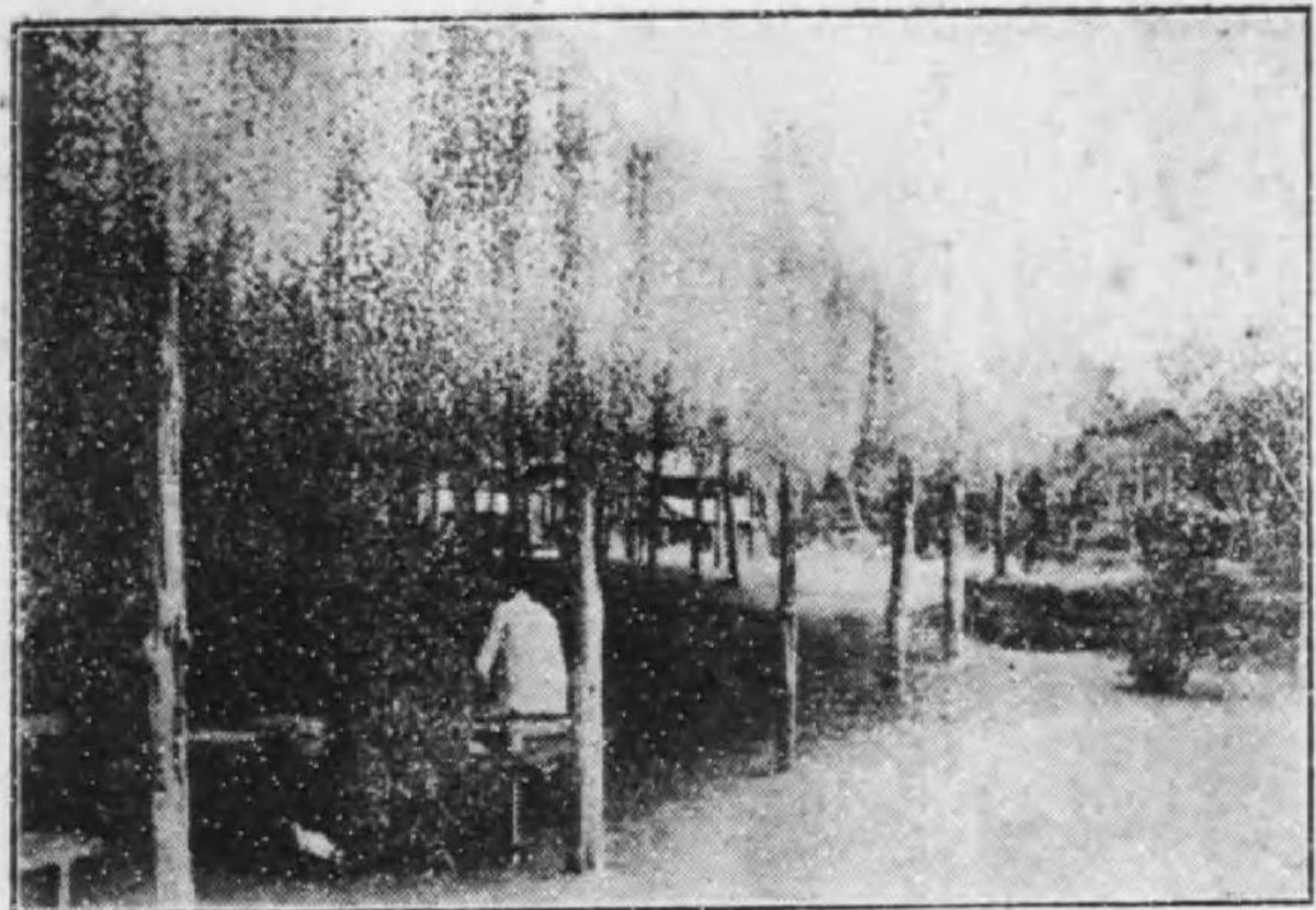
### 粕壁の藤

粕壁驛（淺草驛より六十錢）より十五町。牛島の藤とて、關東屈指の名所である。幹の太さ三丈、花房五尺に餘る古木がある。

町の中央から左折して五六町ゆくと梅田と云ふ所がある。里人は、業平の古址だと稱しておる。業平が「名にしおはゞいざ言問はん都鳥……」と詠んだ、隅田川渡舟はこゝだと云ひ傳へておるが、元より妄説である。

### 不動岡の不動尊

加須（淺草驛より九十三錢）より十一町。本尊は智澄大師作の不動明王で、成田に次いで、參詣者の



粕壁の藤



多い不動尊である。

### 茂林寺

川俣驛（淺草驛より一圓十四錢）より十五町。文福茶釜で有名なお寺である。茂林寺から、館林へ歩いてゆくも面白い。氣持の良い道である。

### 館林

館林（淺草驛より二時間二十三分、一圓二十一錢）日光別街道の名邑で茲から佐野線が分れる。徳川五代將軍綱吉は、將軍職につく前、館林の城主であつた。夫れ以來名があらはれた。驛より三町に善導寺（關東十八壇林の一つ。祐天上人修業の地である）を見て、躑躅ヶ岡へゆく。關東一の躑躅の名所である。

昔この里に一人の美少女がゐた。この乙女は、こゝの沼に身を投げた。すると土地の

人の優しい心根から一株の躑躅がこの丘に植ゑられて何時迄も、乙女の紀念になつたと、やさしいローマンスである。

又、新田義貞の愛妾匂當内侍が遺愛のツ、ジを、上州新田からこゝに移したのだと云はれてゐる。（寛永年中）

館林から二つ先の佐野驛は、館林葛生間の大驛であるが、こゝは、謠曲鉢ノ木の古蹟だと云ひ傳へられてある。

### 唐澤山

田沼驛（淺草驛より三時間十二分一圓五十三錢）より二十八町。依藤太藤原秀郷の城址で、別格官幣社唐澤山神社は山頂にある。（秀郷を祀る）昔の本丸跡に社殿があり、二ノ丸三ノ丸、大炊ノ井等の舊址を存してある、山は登路極めて容易である。春の櫻、秋の蕈は、特に有名である。この邊一帯は、脚氣患者の療養に適する。



### 出流山の鐘乳洞

葛生驛（浅草驛より三時間と二十三分、一圓六十一錢）より二里半。東京の中學校ではよく日歸り遠足をやるが、餘りにせはしい旅びだ。出流の観音は、阪東十七番子授安産千手観音として知られてゐる。本堂は、如何にも幽邃の境である。山の奥には奇岩怪石が多い。鐘乳洞も奥ノ院に三箇ある。秋の紅葉は特によい。

### 足利

足利（浅草驛から一圓四十三錢）は、足利氏勃興の地。關東屈指の機業地である。渡良瀬川は、町の北邊を流れてゐる。驛より五町餘阿寺へゆく。足利義兼建立の古刹で、足利氏の菩提寺であつた。本尊は大日如來なるが故に、土地の人は、大日様と呼んでおる。變阿寺を見たら足利學校へゆく。小野篁が建設した日本最古の學校である。（建設者について

は異説がある。足利義兼の建設とも云はれてゐる）永享年間上杉憲實此校を再興し、日本文明に貢献したこと頗る大である。

足利驛より二里。（俵賃一圓）行道山は風光頗る幽玄、奇岩あり水あり、夏季清涼の地である。山頂に淨國寺がある。

### 太田

太田町は、上野國新田郡の名邑である。下野國足利郡の足利町へ一里強。舊新田の莊で新田氏勃興の地である。名勝古蹟に富む地として、學校の遠足地となつておる。太田の名勝を一巡するには、

高山神社——大光院——金山（新田神社）

と云ふ順がよい。

浅草驛より太田驛迄二時間五十六分賃錢一圓五十七錢。



(イ)高山神社

勤王の志高山彦九郎を祀る。

(ロ)大光院

金山の麓にある。浄土宗鎮西派の巨刹で、建久の頃大光院殿新田義重が建立したのである。本尊は、阿彌陀如來。(始めは寺尾に建立した)義貞の時焼失したのを、慶長十六年徳川家康が再建し、今の地に移したのである。

中興の開山は吞龍上人であつた。これ以來「吞龍さまく」とて、參詣者踵をつぐやうになつた子女の生育に靈驗効ありと云はれておる。

(ハ)金山城址

金山の山上にある。新田神社も山上にある。金山山頂からの風光は、絶佳である。松茸を産する。太田町の旗亭では、秋には、松茸飯して客を呼んでゐる。

新撰名勝地誌云ふ。

大光院 太田町の北部に位し、俗に太田の吞龍を以てその名顯はる。一に義重山新田寺と號し、吞龍上人の開基にして、浄土宗を奉ず。寺傳に曰く「新田義重深く佛乘を信じ圓光大師を渴仰し、老後薙髮して上西入道と號し七堂伽藍を寺尾に創立す。其後ち新田義貞王事に死するに及んで、舉族離散し、伽藍も亦焼失したと礎石を存するのみなりしが、慶長十六年冬に至り、徳川家康、土井利勝、成瀬隼人二人を遣はし此に堂宇を建て義重の墓を遷し、増上寺の僧吞龍を請じて開山となし、寺領三百石を寄附す云々。」寺域九千四百八十五坪餘、本堂、大書院、開山堂、小書院、庫裡、額堂、鐘樓堂、新田義重廟、吞龍廟、寶藏、總門、吉祥門等堂宇壯麗なり。境内には多く櫻、梅等を植ゆ。また本堂の前に臥龍と稱する老松あり、偃蹇數十歩を追ひ甚だ愛すべし。毎歲吞龍上人の忌日法會には賽人蟻集し頗る雜沓を極む。寺に新田氏に關する古文書を藏せり。また北に金龍寺あり。

金山 大光院の背後の山なり。高さ凡そ二百米突許り平野の間に特立す。一に新田山或



は松山の稱あり、滿山老松蔚々として繁茂し、蒼翠掬くすべく風光佳なり。新田山の名は古來よりの名所にして、萬葉集上野國歌にも「爾比多屋麻ねにはつかなわによそりはしなるこらしあやにかなしも」しらとほふを爾比多夜麻のもる夜麻のうらがれせななとこはにもがな」などあり。また家隆の歌にも「告やらば妹やとがめむ新田山岩根の枕たれにかはすと」。頂上に古城址あり。古へ小野篁の繩張せしところと傳へ、新田氏累代の居城と稱し、義貞、義重の修築を唱ふれども、近世史學家の考究するところに據れば、築城は足利時代ならんも、新貞の館址は金山山下の世良田邊に存し、且つ義重の城址も高崎市の南一里なる茶臼山これならんといふ。山上の眺望甚だ開豁、南には利根川の大流の恰も白蛇の如く走るあり、白帆片々、洵に一幅の活畫圖に似たり。山に躑躅花多くまた秋期松茸を産せり。

新田神社 金山の絶頂に鎮す。明治六年の創建にして、贈正一位新田義貞の靈を祀り、別格官幣に列せらる。他に、御嶽神社、淺間神社、梅若稻荷神社、琴平神社などあり。

また社邊に日池、月池の二池あり。多く櫻梅を植ゑ、老松躑躅花たる妙なからず。毎歲四月二十日、十一月二日を以て例祭を執行せり。

### 生品の森

木崎驛（淺草驛より一圓六十九錢）より三十町。元弘三年、新田義貞が旗揚げした所である。神社は一小祠であるが、當時の光景が、マザ〜と目の上に浮ぶ。

### 八坂神社

境町驛（淺草驛より一圓七十八錢）より十四町、創立年月不詳であるが、新田天王、世良田天王と崇められ、世良田附近二十三ヶ村一町の郷社である。世良田は新田義貞の館のあつた所であり、又徳川氏の祖先發祥の地である。



## 前橋

利根川の左岸にあり、上毛生糸市場の中心である。(上野驛より前橋驛迄一圓六十九錢) 茲から、混川を経て、伊香保へゆく電車がある。又こゝから六里にして赤城山大洞へゆける。

舊城址は今公園になつてゐる、利根の清流に臨み、赤城、榛名、妙義の三山を望んで眺望絶佳。驛から僅かに十一町だから一度は杖を曳く可きである。旅館住吉屋、白井屋、東郷館、岩六屋、油屋等、宿泊料二圓五十錢以上。

## 伊勢崎

伊勢崎は、桐生に續いての關東屈指の機業地である。伊勢崎銘仙の名は天下に知られてゐる。(上野驛から一圓八十六錢)

## 國定忠治の墓

國定驛(上野驛より一圓七十三錢)より十五町長岡院の境内にある。俠骨國定の靈は、とこしへに、眠つて、世上人心の墮落を憤慨してゐる。

## 岩舟山

岩舟驛(上野驛より一圓四十八錢)の北八町。山名は山の形ちから起つたのである。山頂に五重塔地藏堂がある。松柏生ひ茂り風光すぐれてゐる。一度は訪ふべき地である。

## 大平山

栃木驛(上野驛より一圓三十八錢)の西一里。(俵賃五十錢)今公園となつてゐる。山上に太平神社がある。元治元年水戸の浪士が、この山に立てこもつたことがある。山上から



の風光は雄大である。山上には旅館及び茶亭がある。旅館は晃陽館、鯉保、一夜の夢を結ぶは一興。

### 藪塚鑛泉

東武線藪塚驛（浅草驛より一圓七十五錢）より七町。（兩毛線岩宿驛より一里二十町）東北に八王寺山の支峰起伏し、西南は開けて、耕地が続いてゐる。泉質は鹽類泉で、皮膚病に効がある。旅館は、今井館、伏鳥館で、一圓二十錢から泊まれる。

### 西長岡鑛泉

藪塚驛より十六町。（俵賃五十錢）弱アルカリ泉に屬し、痛風糖尿病に効がある。旅館は長生館で、自炊客を主としてゐる。自炊者は席料十五錢、入浴料十錢。この附近に阿佐美沼がある。

### 梨木鑛泉

相生驛より分岐する足尾線上神梅驛（浅草驛より二圓八錢）より北西一里、赤城山南麓にある。（乗馬賃一圓五十錢）海拔千五百尺。食鹽を含む炭酸泉で、慢性粘膜炎、子宮病、瘰癧、呼吸器病等に効がある。設備不完全だから都人士には適しない。旅館は梨木館一軒で、自炊客が主である。

相生から足尾をへて間藤迄二十七哩の間は、渡良瀬の溪谷の上を通つてゐる。秋の紅葉は特によい。この間を汽車はユックリと走る。二時間五十分を要するのだから、車窓からもゆるくと、溪谷美を賞することが出来る。

### 足尾銅山

足尾驛（浅草驛より二圓五十六錢）で下車する。町は渡良瀬川溪谷の岸に沿ふてゐる。



銅山あるを以て山間に都邑が出来てゐるのである。往古銅山ありし頃大いに繁盛したが、延享寛延後一時衰へた明治に及んで其業更らに復活して今の盛りを呈してゐるのである。銅山事務所に刺を通ずれば、見學を許可してくれる。

### 庚申山

足尾町から四里。山中奇岩怪石疊時しておるので有名である。元祿年間都賀郡の醫師佐野某が、藥草採取の爲めに來て奇景を發見したのである。山中に神社あり、神官の所で泊めてくれる。山は海拔四千六百尺。足尾から日歸り出来るが、奇景をゆつくり賞するには、神官の所で一泊しなければならぬ。

### 赤城山

赤城山は直立六千二百尺（大黒檜）山容頗る雄大、裾野の美觀は、富士山に比して少しも劣らない。山は草山であるが、牛馬を放牧してあるので迷路が多い。登山道も數多あるが迷路少なく、安全な道は、

#### (一) 前橋道

上野前橋間三時間四十五分、(一圓六十九錢) 前橋から、大沼湖畔大洞(四千六百尺)迄六里。途中二里半小暮迄は俵が通ふ。(一圓五十錢) 小暮からは、乗馬の便がある。但し農家の馬をかりるのであるからして、相場は不定である。里程は遠いが、道は立派なのがついてゐるし、風光はよいからして、疲れは忘れることが出来る。

#### (二) 足尾線水沼道

上野から水沼驛迄五時間四十五分(二圓二十八錢) 水沼から大洞迄二里半。可成傾斜の急な所もあるが、道は迷ふ心配はない。又足尾線上神梅驛からも登れる。これは里程三里。



前橋道から登つて、大洞に出で、(旅館二軒、宿泊料二圓内外)一泊し、山頂大黒檜をきはめて、水沼へ下山するのがよいやうである。大洞の旅館のわきに赤城神社がめる。そこから、大黒檜の頂き迄三十町である。

大洞附近は、大沼湖畔で、夏猶秋のやうな氣候である。避暑地としては絶好である。天幕生活にも適してゐる。赤城登山位ならば、特別に登山の支度もいらぬ、極めて呑気に登ることが出来る。

## 常盤線

— 筑波山 —

龜有

龜有驛(上野驛より二十一錢)は、中川、江戸川方面へ釣に出かける人の下車する所である。中川では鯉、鱈、鰯、沙魚が釣れる。猶此附近一帯は東京市中へ供給する野菜の産地である。

### 松戸園藝學校

松戸驛(上野驛より三十一錢)から國府臺迄三十町(自動車賃五十錢)には、全國で



有名な園藝学校がある。參觀する價值は十分にある。

## 流 山

馬橋驛（上野驛より三十六錢）から、流山輕便線でゆけば其終點である。（馬橋流山間十九錢）味醂及び醬油の産地である。町は、江戸川に臨んで景色頗るよく、河畔の丘上に赤城神社がある。この町は、鯉鮒などの川料理が名物である。是非すゝめたいのは、茲から舟を雇つて川漁をやりつゝ、松戸、市川あたり迄下ることである。

## 東 漸 寺

北小金驛（上野驛より四十一錢）の南四町。總州屈指の古刹である。宗旨は、淨土宗、仙石騒動の神谷轉の隠れてゐた所として有名である。

## 利根運河の櫻

柏驛で、千葉縣營鐵道線に乗りかへ、運河驛（上野驛より六十四錢）で下車、西北一町、沿岸二里の間櫻が咲く。小金井以上の美觀である。柏驛附近は、古の小金ヶ原である。

## 七福村の桃林

野田驛（上野驛より七十一錢）の西半里。この附近一帶の桃林で、花期は頗る美觀である。野田は有名な醬油醸造地である。集樂園、愛趣園等一見の價值がある。

## 手 賀 沼

我孫子（上野驛より五十四錢）驛より東南八町、南北三十町、東西三里に亘る沼である。沼から、鰻、鯉がとれる。沿岸には鳥が多く集る。手賀沼の沿岸布瀬と淺間前との間に、



千間堤の舊蹟がある。享保十三年に、高山友清が新田を開かんとして、沼を横断して築いた堤のあとであるが、事業は不成功に終つた。

### 子神薬師

我孫子驛の東方八町。腰から下の病氣に靈驗ありと云はれてをる。

### 布施の辨天

我孫子驛の北三十町。利根河畔の丘上にあつて、風光頗る絶佳である。境内にある大師堂は、相馬八十八ヶ所の一として、俗信の的となつてをる。この辨天は、關東では、不忍江ノ島と共に三辨天の一に數へられてゐる。

### 取手

常總鐵道の分れる所、利根川に臨んで形勝の地を占めてをる。取手驛（上野驛より六十四錢）附近の名勝は、

#### （イ）長禪寺大師

東一町。相馬八十八ヶ所の一である。

#### （ロ）板橋不動

北三里。本尊の不動明王、及び二童子は國寶となつてゐる。又境内に、寛政三博士の一人岡田寒泉氏の墓がある。（常總鐵道守谷驛から一里三十町）

#### （ハ）相馬古御所

西北三里。平の將門唱覇の舊跡である。

### 常總線の名勝

#### （イ）弘經寺



水海道驛（上野驛より九十一錢）の西北三十町、淨土宗の古刹で、家康の女天樹院（秀頼夫人）は、大阪落城後この寺で晩年を過ごした。今境内に其墓がある。

（ロ）光明寺

下妻驛（上野驛より一圓二十一錢）の南二町。地方の名刹で、門前に、親鸞上人手植の菩提樹がある。

（ハ）大寶城址

大寶驛（上野驛より一圓二十六錢）より南十町。常陸大楦下妻氏累代の城址である。南朝忠臣の美談は、この城に企まれてをる。大寶沼に面するあたり、今公園になつてをる。

（ニ）關城址

黒子驛（上野驛より一圓三十二錢）の西南三十町。關氏累代の城で、北畠親房が關氏に迎へられてこの城に入り、大寶城の下妻政泰と相應して、南朝方の爲めに萬丈の氣を吐

いた所である。

牛久沼

佐貫驛（上野驛より七十六錢）の北七町。沼は、周圍約五里。狩獵地である。こゝでは葦菜を産する。

土浦

土浦は、土屋氏の舊城下、霞ヶ浦の西岸にあつて、水陸交通の便を兼ねてをる。又土浦驛（上野驛より一圓四錢）は筑波鐵道の分岐點である。

旅館は、松庄、江戸崎屋、櫻井、笹本等。

茨城名勝誌云ふ。

霞ヶ浦



新治、行方、稻敷及び下總の香取郡に跨かる大湖にして東西七里十町。南北六里三十三町に亘り周回三十四里十八町許り首部新治郎の尖端を夾みて燕尾状をなし下流は浪逆浦となり又北浦の流末を併せて利根川に合し海に入る。湖中魚蝦を産する甚だ豊富なるのみならず且亦最も風景に富み長汀曲浦四時の變幻に隨ひて萬態の佳趣を呈する言を待たず。西南には富岳の儼として雲表に秀づるあり、西北には日光山の巒として煙外に峙つあり、而して筑峰近く翠黛を凝して倒影を水上に映じ風に飽くの布帆、雨を凌ぐの漁舟顧盼悉く畫中の物ならざるなし。

東西七里十町、南北六里三十六町。  
周圍三十四里十七町。

### 筑波登山

(頂上より眼下を見下し、時のぼけを感ずる。)

筑波山は、東京がら日歸り登山に適する。上野驛から、所要時間三時間二十五分(土浦、

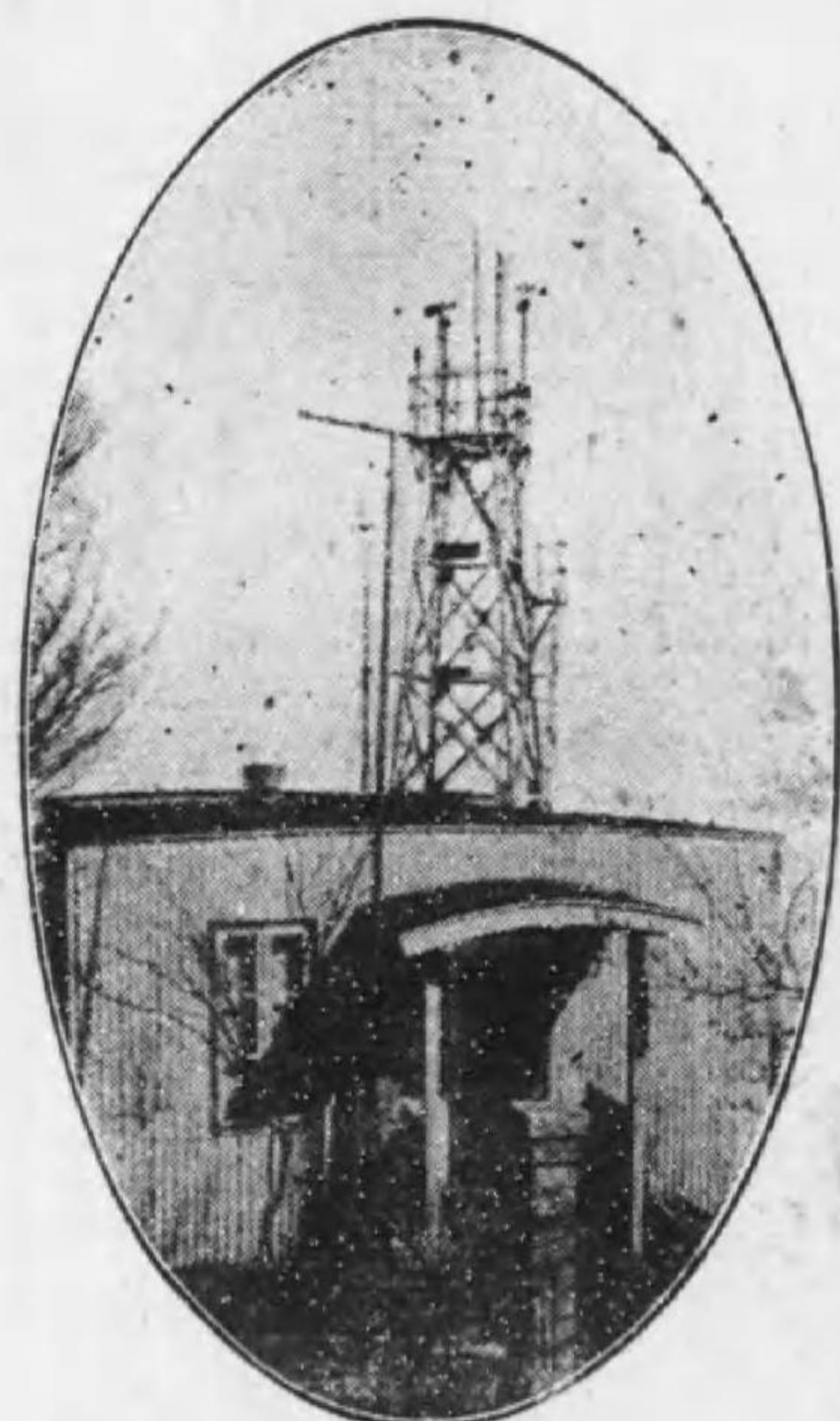
乗替)驛から山頂迄一里七町。山腹に筑波神社及び別當寺がある。中禪寺の下に、筑波町がある。避暑地としては屈竟の地である。旅館は江戸屋、關屋、柿屋、大越屋、塚田屋其他十數軒。こゝの名物は、筑波女郎衆で、娼家軒を並べてをる。通例男體道ち登る。道は迷ふ憂ひはない。傾斜は稍急だが、さしたることはない。百人一首に「筑波嶺の峰よりおつるみな川の……」とある水無川水源地を見て、御幸ヶ原へ出て、左へ道をととり男體の峰を究める。海拔二千九百尺。風光は雄大で、關東平野は唯一目である。男體神の傍らに、山階宮が御建立なされた高山氣象觀測所がある。再び御幸原に下り、夫れから女體の峰を究める。そして、女體道を下つて、筑波神社の所へ歸つてくるのである。

筑波驛より筑波町二十町(上り四十分、下り二十分)

筑波町より男體山頂二十三町(上り二時間)

男體山頂より女體山頂五町(三十分)





女體峰より筑波町迄二十五町

(下の一時間半)

筑波町中腹から山頂迄悉く花崗岩、絶頂は閃綠岩で、太平洋から吹きくる風は水蒸気を持ち來つて、之に衝突するので、松杉鬱々として茂つてをる。植物の種類は豊富である。

▲女體は二九〇〇尺男體は二八七〇尺で女體の方が高い。

### 椎尾薬師

上大島驛より十五町。桓武帝の勅命に依り、最仙上人の草創で地方の一名刹である。墟

内幽邃である。夏季屈指の避暑地である。附近に旅館、旗亭等がある。

### 加波山

眞壁驛で下車。眞壁は人口八千。地方屈指の商業地で、慶長中、淺野長政の領地、後笠間牧野氏の封土であつた。城址は驛より五町。

加波山事件を以て著名な加波山は、驛より一里、海拔二千三百四十尺、筑波の峰つゞきである。山上の三枝神社は、日本武尊東夷征討の際神托に依つて創祀し給ひし名社で、古くは、加波禪定と稱して、夏季登山するもの頗る多かつた。明治十七年河野廣中らこゝに立てこもつて民権論を唱へて、明治政府に抗した。不幸一敗地に塗れたが、この壯舉は、明治政權史を飾るものである。

又眞壁驛から、傳正寺温泉へゆくもよい。足尾山(二千七十一尺)へ一里である。



## 雨引山

雨引驛から二十五町。驛から延命安産子育の観音と云はれる雨引観音迄十七町。観音の所から、山へ登るのである。山頂は海拔一千三百五十尺。眺望絶佳である。紅葉、櫻の名所である。

## 磯邊櫻

岩瀬驛から二十五町、俣の便がある。(五十錢)。櫻樹數百株、古來著名な櫻の名所である。青柳(十町)と共に、謠曲櫻川の名所である。かの小金井の櫻も十分の三迄は、この櫻川の櫻を移植したのである。

シテ「あたら櫻の地」く。とがはちるぞうらみなる。花もうし風もつらし。ちればぞ誘ふ。シテ「誘へばぞ散る花かすら。地」かけてのみ眺めしは。シテ「猶青柳の糸櫻。

地「霞のまには。シテ」樺櫻。地「雲と見えしは、(謠曲櫻川)」

## 富谷観音

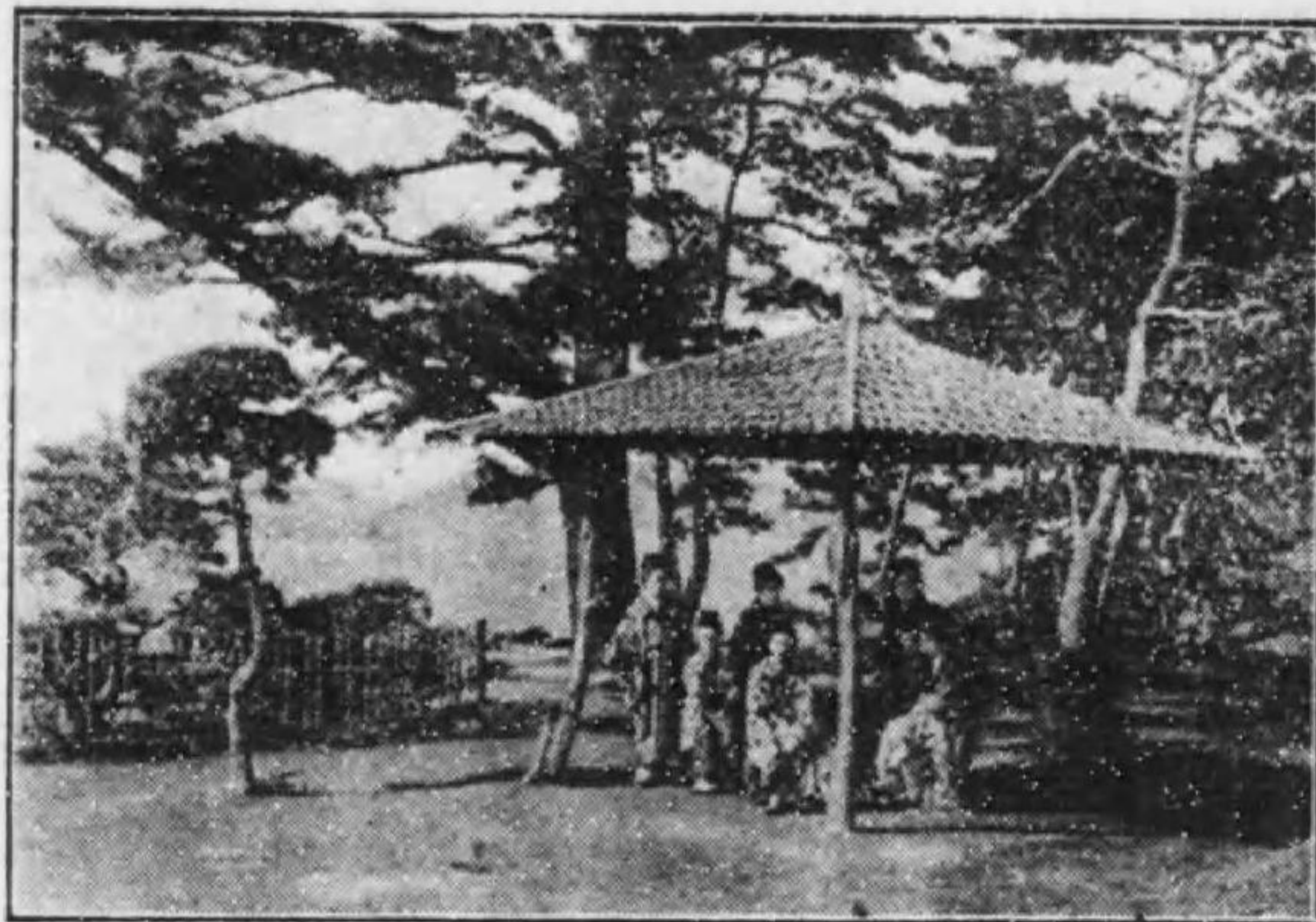
岩瀬驛より三十町。天平七年聖武帝の勅願寺で、行基菩薩の開基と云はれてをる。三重塔は、特別保護建造物である。寺域は山腹にあり、眺望絶佳である。

## 稻田御坊西念寺

岩瀬驛より一里、官線稻田驛から僅かに四町。稻田禪尼の墓があるので有名である。禪尼は關白九條兼實の女で玉月姫と稱したが、見真大師の室となり、この地にとどまること二十年。弘長三年九月十三日、七十八歳を以て歿せられたのである。

▲再び常盤本線に歸る▼





常盤公園

常盤公園

水戸（上野驛より三時四十七分一圓七十六錢）は徳川氏親藩地として、威望天下に振つた地である。市は、東を下市、西を上市と呼んでをる。水戸で見ると可きは、常盤公園である。（今第一公園と云ふておる。）後樂園が本名で、日本三公園の一である。驛より十五町。

この地もと藩主遊息の地であつたが、天保十年烈公齋昭これを拓き、園の西方に好文亭を設けた、仙波沼の眺はかくべつである。梅樹と躑躅が多い。梅の頃は雑沓する。園の東隅に義公や烈公を祀つた常

盤神社がある。別格官幣社である。他に水戸で見るべきは、

(イ) 弘道館碑

舊城大手門前面の三ノ丸にある。天保九年三月、徳川齋昭の創立した所で、藩士に文武の學を講ぜしめた遺跡である。今其構内は、公園となつて、第二公園と呼ばれてゐる。やはり梅樹が多い。

(ロ) 彰考館

常盤神社南の崖の下にあり、かの光圀に依つて始められた大日本史の編纂所であつた。大日本史編纂の事業は明暦三年に始まり明治三十九年に及んだ。（光圀は最初史局を江戸駒込の下屋敷に設け、寛文十二年に小石川邸に移し、元禄十一年にこれを水戸に移したのである）

旅館は清香亭、芝田屋、鈴木屋、太平館、菊屋等である。



## 西山莊

水戸から水戸鐵道に乗替へて、太田驛（上野驛より二圓三錢）で下車すれば、僅かに三十町。（俵賃五十錢）水戸黄門光圀隠棲の地である。文化中一度燒失したが、夫れを烈公齋昭が古へに模して再建したのである。

太田驛の北一里五町に、水戸家歴代の墳墓のある、瑞龍山がある。朱舜水の墓もこゝにある。

## 那珂湊

那珂河口の湊で、沿岸の風光は頗るよい。海水浴場としても繁盛してゐる。旅館は、水港館、恵比藤、高安樓、木村屋等（上野驛より勝田一圓八十二錢、勝田と湊間二十二錢）で、宿泊料は三圓以上。湊から平磯迄一里自働車の便がある。平磯の旅館は、開運樓、平磯館、

萬年屋等で、宿泊料三圓以上。平磯より三十町に、國弊中社酒列磯前神社がある。

## 大洗海岸

大洗は、有名な海水浴場である。湊から三十町俵賃（五十錢）。水戸驛から三里二十五町水濱電車の便がある。午前五時から午後十一時迄三十分毎に發車する。電車賃三十七錢、電車からおりて、大洗迄五町許りである。

磯節にはゆる「波の花咲く大洗」であるが、海水浴地として不適當である。豪宕を極めた大洋の眺めソコに無限の價値があるのである。遊樂の地で、豪奢を誇る御客さんが多い。旅館は、魚來庵、金波樓、小林樓、遊神閣等で、一泊五圓以上とのことである。茶代の五圓位おいても、禮一つ云はぬと云ふ地である。大洗崎の岡の上に鎮座まします大洗磯前神社は大己貴命を祀つた古社で、國弊中社である。風光は雄大である。



## 磯 濱

水濱電車の終點である。近時築港の結果遠淺となり、海水浴場としては絶好である。大洗との距離は、僅かに五町であるが、俗化してゐないのと、物價の廉いのが何よりも嬉しい。一泊二圓五十錢位である。間借りをしても廉い。

茨城名勝誌云ふ。

### 大 洗

磯濱町の東北、別天地をなすの地にして大洗山及び大洗下の二區に分つ。其の風景の絶佳なる東海他に比すべきの地なし。其の大洗下と稱する地東端大海に突出する數町の岬角にして五六の旅館は皆崖端に沿ふて建設し、海水温浴場を設け來客の應對極めて忙し。此地氣澄み水清く、四時晩翠を含み、潮風に鼓するの松琴は、岩礁に激する濤聲と相和し、蒼海萬里一望際なく、往返の帆船は白鷺の游泳するが如く、或は北し或は南す。南

望すれば鹿島の岡巒は遠く水天の間に走り、西すれば遙に富岳の倒扇を望み近く筑峰の翠黛を睥ふ。北すれば湊平磯は屋瓦の累々たる一眸の中に在り、下瞰せんか奇岩怪石は蟠窟基列し蒼波爲に激して珠簾を飛ばし雲を吐き汪洋怒號雷聲を欺く、愈見て愈快なり、波間に進まば海水浴を爲し得べく、蟹蝦を獲、貝介を拾ひ得べく、或は綸を垂れ網を投すべく、其の愉絶快絶亦比すべきなし。再び跡を轉じて神社に向はゞ石壇の下涓々潺々として湧出する小池あり。

清涼透徹、中央に噴水器を設け、銀糸混々噴出す、即ち神社の神泉なり、蒼樹鬱々綠陰滴る所、盛夏尙其暑を知らず、是より石階を上る二十尋頗る峻急、鐵杆に依て昇降す、漸く登て社前に達すれば開豁なる庭園あり種々の花卉を栽培す。眺望の絶佳なる所茶店軒を並べ參詣者休憩の便に供す。神社は大洗磯前神社と稱し大己貴少彦名の二神を祭る初め文徳天皇の齋衡三年此地に靈蹤を垂れ玉ひしより延喜の制、名神大社に列せられ、實に東海の大靈社なりしも永祿中、小田氏治の亂に兵燹に罹り僅に小社を存せしが徳



川光園社殿を經營し以て此の壯觀を見るに至る。明治十八年四月國幣中社に列せられ神威愈々たり。毎年九月九日大祭を行ひ又陰曆八月朔日、八朔祭と稱し盛なる祭典を行ふ。此地散策の料となすべきもの頗る多く。與利幾神社、琴引ノ瀧、平太郎磯、箱磯、大龜磯、吹雪磯、烏帽子岩等を始めとして感應の碑、鬼洗澤、子ノ日原等を探るべく又松露狩防風摘等をなすべく一たび此地に到らば晷の移るを知らず、其快遊實に得易らざるの地なりと云ふべし。

平磯

平磯町は那珂湊の北二十餘町の海岸にして紆徐の市街は東南海岸を包み、平砂遠く波濤を迎ひ西北は高阜を負ひ冬暖かに夏、冷く氣候に激變なく空氣爽に飲用水清良なれば海水浴場として實に得難き所と云ふべし、其の眺望の絶佳なる蒼海萬里白帆の點々たるは白鳥の空天に舞ふが如く岡巒迥に水天一髪の間に盡くるものは鹿岡二十里の汀砂にして近く翠黛を凝す者は、大洗岬頭、磯前神社の森林なり。下瞰すれば波間岩礁突起し或は巨

鯨の横はる如く或は猛虎の怒るが如く激浪ために碎けて奇形萬態實に名狀すべからず。平時は一部の漁村たるに過ぎずと雖、夏月三伏の季、潮湯治に集まるもの年一年に増加し毎年平均三萬人に下らずして大小二十餘の旅館もために不足を感じ沿海の民屋も一時旅店に充てらるゝに至る。眞に自然の好湯治場と云ふべし。

水木及び久慈海水浴

大甕驛（上野驛より二圓五錢）の東十二町に水木海水浴、南半里に久慈海水浴場がある宿泊料も低廉であるが、如何にも不潔なので、都人士には適しない。（旅館、濱屋、佐野屋清水屋）

河原子海水浴

下孫驛（上野驛より四時間四十分二圓十一錢）の東十町（棧賃三十錢）自動車の便があ



る。享保頃から潮湯治として來遊したものが多かつた。風光は頗るよい。旅館は岩崎樓、樂遊樓、眞砂屋、永野屋等で、宿泊料は三圓五十錢以上。

茨城名勝誌云ふ。

海岸宿驛にして居民漁農相半して生計を營む。此地の潮湯治は享保年間より始まり功驗最も良好なるを以て常盤線開通以來其便につれ東京兩毛地方より來遊するもの年毎に増加し、將來最も好望の地なり、其他南は遙かに磯崎岬を望み、其間五六里白砂青松相連る又海岸里許にして水木濱に至らば泉川の古蹟あり、西北に進まば諏訪の水穴、大久保の風穴等を探るべく東は渺茫たる蒼波を望み海岸に烏帽子岩突起し其高さ四五十丈老松茂生、綿津見命を祀る、即河原子八景の一なる津明神の歸帆之なり。其近傍水泳に便にして婦女子も容易に試み得べく退潮のとき遠く七八町に及び大島、米島、北島、向島等に到るを得べし。蓋し大洗平磯等に比して遜色なき好地と云ふべし。

### 鮎川海水浴

下孫驛の北十五町。(俸賃五十錢) 後ろは丘、前は渺漫たる大洋。鮎川の清流は、海に注いでをる。この川は鮎の産地である。この地では焼石湯と云ふのが有名である。夫れは、この川に産する槐石を熱炙して浴槽に入れ、潮水を湧かしたものである。旅館は海風館、河合屋、島崎樓其他で、宿泊料は二圓五十錢以上。

### 助川海水浴

助川驛(上野驛より二圓十八錢)の南三町。この邊一帶の海岸は、至る所海水浴に適してをる。砂白く松青く、一美觀である。旅館は東曉館、天地閣、眺洋館等で、宿泊料は二圓乃至三圓。



### 磯原海水浴

磯原驛（上野驛より二圓四十七錢）の南五町。波は荒いが、岩が多いので、岩礁自身が自然の海槽をなしてゐる。天妃山に登るも一興。旅館は山海館、一泊二圓内外。

### 平潟灣

關本驛（上野驛より二圓五十六錢）の東北半里、歸りは勿來の驛へ出ればよい。陸前濱街道中の風景の美はしい所で、灣に沿うて半圓形に架けられた棧橋には、商家が連つてゐる。その近くに八幡神社がある。其前には、海水旅館がある。又藥師堂の當りも見ることから涼しい。避暑地としても絶好である。上野驛から約六時間かゝるが、一夏を送るには詠へ向きである。

水戸から、勿來に至る海岸の海水浴場は、七月から八月十日前後まで、八月の中旬に

なると、海のさきが暗くなつて、陰氣でいけない。

### 勿來關址

勿來驛（上野驛より二圓六十一錢）の西南半里。昔は、白河の關と共に、陸奥に入る關門であつた。私は、關址を探つたら、必らず、平潟灣を御訪ひなさいとすゝめる。關址から平潟灣迄僅か一里に過ぎないのだから。

吹く風をなこそその關と思へども

道もせに散る山櫻かな

義家朝臣

田山花袋氏云ふ。

勿來關は平潟からすぐである。

汽車で行けば、勿來で下りて、國道を左に山路に入る。約七八町、爪先上りである。義家の通る時分には、路は其方の方にあつたものと思はれる。



例の『吹く風はなこそその關と思ひしに、道もせに散る山櫻かな』と義家は此處に来て咏んだのである。今は花も何もないが、一體この附近の山の中は、山櫻の多いところで、平から白河へ出る道あたりは、今でも春通ると、爛熳として到る處白雲を靡かせてゐるといふことである。

で、その山路を上ると、やがて關の址のあるところへと出る。例の歌を刻んだ碑が立つてゐるばかりで、別に何もないが、こゝを義家が通つて行つたと思ふと、何となくなつかしい。その時分は、或は今の國道のあるあたりまでは海波が押寄せて來てゐて、一夫これを守れば萬夫も越ゆる能はずといふ險要の地點を成してゐたのであらうと思はれる。

この近所で櫻の化石が出る。それを賣つてゐる家が一軒そこにある。海岸は松川磯と言つて、常盤線中殊に風景のすぐれたところである。徙崖の長く海中に突出してゐる形も面白いし、松原の磯に連つてゐるさまも好い。森漫として際涯を知らな

い海が美しくその前に展開されてゐる。

旅館には住吉屋、櫻雲閣、笹木屋などといふのがある。

しかし、この附近には、例の有名な日立鑛山——日本でも最近に發達した大きな鑛山があるの、その人達がよく來ては此處に泊つて行くので、何うかすると、旅館に思ひもかけないやうな雑沓に出會することがないとも限らない。

### 泉海水浴

泉驛（上野驛より二圓七十三錢）より三十町。馬車鐵道の便がある（十錢）海水もキレイだし又遠淺であるから婦女子にも適する。旅館は、新米、錦盛館、吉田屋等宿泊料は一圓五十錢以上。

### 湯本温泉



湯本驛（上野驛より二圓七十九錢）の西北三町。（俵賃五十錢）遠く千年前の發見だと云はれてをるが、炭坑事業の進展につれて泉源壯絶した。今では、ポンプで吸ひ上げてゐる硫黄泉で、皮膚病、腺病によいとのことである。

風光の見る可きものゝないのと、附近に炭坑があつて騒しいのとで、わざ／＼ゆく可き所ではない。旅館は松柏館、湯本ホテル、山形屋等。宿泊料二圓以上。

### 常福寺

平驛（上野驛より二圓八十九錢）の西二里、岡伽井岳の中腹にある。眞言宗の古刹である。一度は訪ふべき所ぞかし。

平は、水戸以北第一の都邑で、安藤氏三萬石の舊城地である。人口一萬九千。旅館は丸新館、住吉本支店、山本屋。

新選名勝誌云ふ。

專稱寺 平町の東方一里、夏井村大字山崎にあり。淨土宗、應永二年の創立にして、延徳中、後土御門天皇の勅願所となり、奥州本山の名を賜ふ。境地、東は遠く海濱に、連り、西には平町の人煙を近く目睫の間に望み、眺望や、快轄なり。本堂に傳慈覺大師作阿彌陀如來を安んず。また、寺の東に如來寺あり。嘉元年間の草創、淨土宗名越派四本山の一にして、社地、東に海洋を望み、夏井川の清流を脚下にして、風光頗る秀麗なり。この他夏井村大字菅波には式内大國魂神社あり。

赤井嶽の龍燈 赤井嶽一の岡加井嶽に作る。平町の西方約三里に當り、標高二千三百七十六尺を有す。山頂藥師堂を安じ、水精山常福寺これを管す。夏秋の候この山の上より望めば、無數の光遙かに海中より夏井川を溯りて山上に向ひ來集す。この地方にてはこれを龍燈と稱し、頗る有名なり。ことに、七月の祭禮にはこれを拜せんとて、相馬及び栃木地方より來りて夜を徹するもの數百に及ぶといふ。因にいふ、山腹の常福寺は大同六年の創建、眞言宗にして、本尊藥師如來は南天竺龍智菩薩の作といふ。寺邊に古樹多



く、枝葉と雖も一切これを採伐するを禁ず。一紀文に曰「阿伽井嶽、有龍灯、初昏載星時、四倉海上光浮出、沂竈川及溪水、至此山麓、飛懸大杉梢、又飛入林中不見、後續來者亦然、火光點々相迫、自昏至曉、不知其數幾許、凡月夜則光微、暗夜則如螢、或如炬、蓋陰火也、而從他所觀之則無一點光云、亦奇也。

藥王寺 平町の東北二里、大野村にあり。仁壽中の草創と傳へ、眞言宗を奉ぜり。寺の佛畫は近年國寶に算入せらる。

惠日寺 藥王寺の東方一里にして、同村大字王山にあり。同じく眞言に屬し、仁壽中の開創と傳ふ。寺域やゝ高く、田圃を隔て、大浦村の館山と相對し、玉造川蜿蜒としてその中央を貫流し、遙か東南には外洋の渺々たるを望み、風光佳なり、寺の山門は左甚五郎の作と傳説す。

### 四ツ倉海水浴

四ツ倉驛（上野驛より二圓九十八錢）の東十町。この邊木奴美が浦と云ひ風光明媚である。海水浴場として非常に氣持がよい。旅館は潮聲館、海氣館、柏屋、野木屋、宿泊料は二圓以上。

### 玉川鑛泉

四ツ倉驛の西北一里三十町（俵賃一圓二十錢）三方は山、南方は眺望頗る廣い。炭酸泉で尿道、膀胱、生殖器に効がある。旅館は、石屋、藤屋、玉屋等で自炊客が主である。

### 中村

上野驛より中村驛迄九時間五十六分を要する。（三圓九十二錢）相馬氏六萬石の舊城下である。城址は驛の西十五町。小高（小高驛より五町）太田（磐城太田驛より十五町）中村（中村驛より十五町）を相馬三妙見と云ひ、七月十一日より十三日に亘つて野馬追祭があ



る。

新選名勝地誌云ふ。

野馬追祭 相馬地方唯一の特色にして、明治の今日猶かゝる祭事を行ふものありやと驚かるゝ許りなり。抑々この野馬追祭は相馬三郡の廣きに跨り、中村町、原の町、小高町を通じて南北七里餘、西は遙かの山手より、東は小濱の海濱に抵るまで、皆この大祭典に關與せざるなし。其由來を原れば、藩主相馬の祖平將門が、八州の兵を下總小金原に集めて、盛に訓練を爲したるに濫觴し、相馬家が覇を此地方に唱るに及んで、益々その祭事を盛にし、寛文中忠胤の時に至り、軍師大江又左衛門を聘し、武田流の軍法を以てこの祭を行ひ、愈其の祭義を大成せり。維新後、祭事一度中絶したりしが、明治二十七八年日清戰役後、再び復興し、祭日を七月初の三日に定め、一日は原の町にて宵乘を試み、二日は雲雀野（原の町）にて野馬を追ひ、三日は小高野にて野馬掛を行ふとせり。この野馬追の隊列を見れば、皆純然たる古代の武裝、黒糸絨の大鎧に五枚兜の緒を

締めて三春駒の八寸ばかりなるに跨りたる大男もあれば、紺糸絨の鎧を着て鉢形に半月の兜を戴き、白なる幌を負ひて月毛の馬にゆられ出でたる老武者もありて、孰れも皆な思ひくの出立、馬もまた月毛、川原毛、鹿毛、黒毛等粹を抜き雄を選びて、その數千騎の一隊々々に列をつくりて進み行くさま、眞に都人士の眼を刮せしむるの價値充分にあり。毎年その期に至れば臨時列車の轉運あり。

### 原釜海水浴

中村驛より一里八町。俵の便がある（七十錢）こゝから舟を浮べて、大江川の河口に位する長浦にある、松川浦の十二景を探るも一興である。特に、鷗ノ尾岬の夕顔觀音より全景を大觀することが出来る。

### 鳥海海水浴



巨理驛（上野驛より四圓十八錢）の南一里、（俵賃七十錢馬車賃四十錢）阿武隈川の海に  
 注ぐ所にある。波靜かであり、景色もよいので、海水浴場としてはよい所だが、惜しむら  
 くは遠すぎる。旅館金波樓、荒屋、木村屋等で、宿泊料は二圓乃至三圓で頗る低廉であ  
 る。

## 東北本線

一日光線  
 一盤越線

### 道灌山

田端驛（上野驛より六錢）の上が道灌山である。（市内線動坂からもゆける）舊幕の頃  
 は、春は花、夏は納涼、秋は虫聽、冬は雪見と四季の遊び場所となつてゐたが、今では附  
 近が住宅地となつてしまつたので、昔の面影はない。この地は太田氏築砦の跡とも、又は  
 關道閑の屋敷跡とも云はれて、何れが是か夫れは判然しない。

西ヶ原 貝塚



田端驛の西北二町。今は住宅地となつてしまつた。貝塚は、上野道瀧山より西北に走る  
洪積層の丘陵にあつたのである。蓋し、太古此邊は、東京灣の一支灣であつたのである。

### 飛鳥山

王子驛（上野驛より十一錢）前の丘である。（王子電車でもゆける）都下屈指の花名所である。江戸趣味の一であつた。春の花見は段々と江戸の町から驅逐されて、漸くこの飛鳥山でのみ面影をとどめてをる。其筋でも、此山で丈けは假装をゆるしてゐる。櫻は八代吉宗將軍の時に植ゑられたのである。明治十四年以來公園となつた。

飛鳥と云ふ名は、元享年間に豊島左衛門が山上に飛鳥の祠を建てたのに始まる。

### 瀧ノ川の紅葉

王子驛から、王子神社、王子稻荷の境内を通つて、十町。（王子電車でもゆける）近郊屈

指の紅葉の名所である。特に金剛寺境内の紅葉は美事である。今は都人士の遊樂境である。

### 浮間の原

赤羽驛（上野驛より十九錢）より十七町。驛から、工兵大隊の坂を上り、練兵場を抜けて、大袋村から浮間の渡をわたれば、浮き間の原である。櫻草の多いのを以て知られてゐる。之より少し上の、横旨根原、又戸田橋の彼方戸田ヶ原にも櫻草が多い。

### 荒川堤の櫻

赤羽驛下車。荒川堤約二里半の間は、櫻の時には花のトンネルをつくる。樹種の多いことが特徴である。（八十種）

花は四月二十前後が満開。



市内からゆくには、千住大橋から汽船でゆくか、さもなくば、東武線で西新井迄ゆき、そこから、堤へ出るのである。歸りに赤羽へ出るをよしとする。(堤から赤羽驛迄三十丁ある。)

次驛川口驛近傍から、秩父多摩諸連峰の雪景色は、頗るみものである。

### 與野公園の櫻

與野驛(上野驛より三十九錢)の西十町。丘陵の上にある一小公園である。けれ共丘上至る所櫻であるからして、櫻の名所としては、東京郊外屈指と云ふてよい。

### 見沼川の螢

與野驛の東八町。螢の名所である。大きさも普通のものゝ倍からある。旅館もある。二三艘の田舟に乗つて、螢狩りすると面白い。

驛の西南六町に二度栗山がある。俗信の的となつてゐる。療養の爲めに、參籠するものもある。

### 大宮公園

大宮驛(上野驛より四十四錢)より東北十一町。公園内に官幣大社氷川神社がある。古へ武藏國の一ノ宮で、素盞鳴尊、大己貴尊、奇稻田姫命を祀つてある。樹木鬱々として、神さびてをる社前には、御手洗池がある。神社の例祭は、八月一日で、又十二月十日には大湯祭りがある。公園内は、眺望は樹木に遮られて廣くないが幽邃である。こゝこは万松樓、公木樓、藤ノ戸、松友館等旅館が立ち並んでをる。東京あたりから、ツレ込みの御客が舞ひ込んでくる。万松樓にはアルカリ性の鑛泉がある。

「當社は草創以來二千餘年の星霜を経たり。景行天皇の御宇、日本武尊東征の時當社を祈りて戰に利あり。後、聖武天皇の朝諸國に一ノ宮を選定する時、當社を以て武藏の一



ノ宮となす。天慶年間平貞盛等將門を征する時、願書を捧げて祈願せしに果して戦功あり。この願書は今なほ重寶として所藏す。尋で治承四年、源頼朝社殿を修營し、社領を寄進す。徳川家康もまた社領を寄附し、且つ朱印の書を賜ふ。降つて明治元年、至尊御東巡の際親しく参拜あらせられ、爾後年々奉幣の典あり云々」

### 栗 橋

栗橋（上野驛より八十錢）は、利根河畔にあり、嘗ては河港として繁盛した所である。今では昔の面影がない。けれ共、川魚料理で、通人の間に有名になつておる。稻荷屋と云ふ旗亭は、利根の大江にのぞんだ家で、涼味たつぷりである。一寸した清宴を張るには別種の味がある。

九郎判官義經の愛妾靜御前の墓は驛の前にある。

### 古河の桃林

古河驛（上野驛より九十六錢）の南半里、土井利勝が植ゑたもので關東屈指の桃林である。この古河の町は土井氏の舊城邑であつた。戦國の世には、足利成氏この地に居を構へ、關東公方として、關東に號令したのであつた。古るき町とて、何處となく落着いた氣分がある。

この地鮭延寺に、熊澤蕃山の墓がある。

### 思川の鮎嶽

小山驛（上野驛より二時間二十分一圓二十一錢）の北六町。思川は、利根の一支流である。水頗る清く、鮎の種類も極めて上等である。多摩川のやうに俗化してゐないからして氣持よく一日の清遊をすることが出来る。



舟は十八人乗船頭付二圓五十錢、投網一圓二十錢、一兩日前に、驛前の角屋旅館へ通じておけば、萬端の用意を調べておいてくれる。  
思川の向岸に小山城址がある。眺望頗るよい。

### 薬師寺

小金井驛（上野驛より一圓三十四錢）の北一里。僧道鏡の貶せられた所である。昔は立派な寺であつたが、今は廢絶して、龍興寺をとむるのみである。又驛の西一里に國分寺址がある。

### 二荒山神社

宇都宮驛（上野驛より一圓六十一錢）の西十町、市の中央にあり、社地から、市街の全部を大觀することが出来る。國幣中社で、崇神天皇の皇子豊城入彦命を祀つてある。こゝ

より五町に宇都宮城址がある。宇都宮釣天井で有名である。舊幕の頃、戸田氏がこゝにゐた今では公園になつてゐて料理屋もある。宇都宮は、極めて明るい氣持のよい町である。旅館は、白木屋本支店、手塚屋、丸治、結城屋、河内屋等。

### 大谷観音

宇都宮驛の西北二里十町。人車鐵道の便がある。（二十一錢）この地は、大谷石の産地として知られてゐる。大谷石は火力に耐ふるので珍重せられてゐる。

大谷山の中腹に、天開山大谷寺がある。坂東巡札第十九番の靈場で（僧傳海の開基）奇岩怪石が多い。小妙義と云はれるも理りにこそ。寺のほとりに、盤水と云ふ一旗亭がある。春の躑躅、秋の紅葉は特によい。

### 多氣山



宇都宮驛の西北二里半。山の中腹に、不動明王が祀つてある。古へ源頼義、安部氏時を追討の時、石山座主宗國勅命を奉じて、下野に下りて、調伏の壇をきすき一ヶ月が間五大明王を祈つた。その一體をこの山に祀つたのである。一山の風光頗るよい。

### 古峰ヶ原

鹿沼驛（宇都宮驛より二十四錢）の西七里、馬車賃二圓。日本武尊を祀つた古峯ヶ原神社がある。こゝの神社に泊つて、翌日足尾へ出ると面白い。行程三里半。

### 日光探勝

日光は、山水美と人工美をあつめえた所で、凡そ日本人たるものは一度は杖を曳かねばならぬ。春の春色、夏の涼しみ、秋の紅葉は、とりくに面白い。日光廟を見て、中禪寺湖迄ならば一泊でよい。湯本温泉迄ゆくとなれば、二泊せねばならぬ。上野日光間は、四

時間二十七分かゝる。賃金は三等で、二圓十四錢。日光の町は、驛の所から神橋迄商賣軒をつらねてゐる。（町は海拔二千尺）

旅館も其數非常によい。二圓内外で泊める家もあれば、五圓位とる家もある。一流の旅館は、小西、會津屋、神山、紙屋、油屋等。洋式では金谷ホテル（驛より十五町）日光ホテル（驛より二十町）驛の前には、人力車もあれば、自動車もある。名物としては、日光羊羹、木細工、日光下駄が名高い。大正十三年度夏季に於ける避暑客の數人員は内地人一萬九十七人、外人七百四十九人である。

日光から馬返一迄二里の間電車が運轉せられてをる（五十分間、四十錢）  
遊覽の順席をしるす。

### 日光廟

大谷川に架せられた朱塗の神橋を左に見て橋をわたり右へ坂を登れば、日光廟である。





中禪寺湖の野島

(神橋は長さ十五間幅四間)一人九十錢の拜觀料を拂つて入る。九十錢出せば、東照宮、大猷院、二荒山神社、輪王寺宮全體を一見出来るのである。但し寶物を見る場合には別に一ヶ所について十錢宛出さねばならない。案内人を雇へば、料金四十錢かゝる。一通りみるのに、先づ二時間はかゝる。靈廟は午前八時十月一日至三月末日迄は午前九時)に開き、午後四時には閉ぢるのである。

新選名勝地誌云ふ

輪王寺はその路を左折したる所にありて、中に本坊及び三佛堂の二建物あり。

二佛堂は偉大なる建築にして、往古は金堂と稱せ

四十一年トニカニテ

しもの(桁十七間一尺、梁間十間五尺、礎石より棟木に至りて八丈八尺、銅瓦、總屋根兩妻入母屋、總朱塗なり)本尊は日光三社の本地佛にして、中央なる彌陀の像は後光より臺座まで總丈二丈六尺五寸左方千手、右方馬頭の觀音の像あり。其後に相輪盤聳えて美しき金色の瓔珞は中央に立てる輪控の明柱を圍み、上に一箇の擬室珠を戴きたり。僧天海の建立せしものにして、寛永二十年の創建にかゝれり。本坊の庭は衆庶の觀覽を許さずと雖も、近江八景を像りてこれを作り、泉石の配置頗る瀟洒を極む。

更に數百年を閱したる古杉樹の間を穿ては、黒田長政の献納したる石の華表は高く眼前に聳立して、上に後水尾天皇の宸筆に成れる東照大權現の勅額を掲ぐ。五重塔は其西にありて直ちに表門(元二王門といへり)の石階に至る。

此處にて下足を托し直ちに廟内に入る。

表門を入りて三神庫あり。共に右方に相並べり。三神庫には大象二頭の彫刻あり。厩に於ける松及び猿猴の着色彫刻を見て、赤番所の前を向ふに過れば、燦爛たる御手洗



石盤は水を噴いて、美しく其四面に流れ落ちたり。俗に御水屋と唱ふる者にして、水盤石長八尺五寸、幅四尺高三尺五寸、御影石を以てこれを刻めり。而して唐銅鳥居は其前にあり。南蠻鐵燈籠はその華表の石階の下にあり。其石階を上りて、飛越の獅子を見、諸家献納の燈籠の多きと朝鮮献納の廻燈籠、總屋の美極れることを賞し、更に首を回せば、金碧を盡したる、

陽明門は既に數歩の中に聳えて、思はず人をして墮若たらしむ。三手先造四方唐破風造にして、前面四間、横面二間、軒頭に金の大鈴を掲げ、下手先に金龍白龍を點出せり、柱を有すること十二本、皆な槐の白木にて造れる圓柱にして、綾菱に圓輪を設けたる地紋を附し、内に鳥獸草花を彫刻せり。殊にその内の一柱逆柱と稱し、地紋の渦流皆下に向ひて卷けり。案内者の言ふ所に従へば、この門あまりに完全に出來上りたるを以て、除の爲に殊更にかく無したるなりと、欄干はところして彫刻ならざるなく、人物鳥獸の形皆精巧を極む。殊に、この門の天井に書かれたる昇龍降龍の畫は狩野探幽守信の筆に

して。その墨汁の淋漓たる蓋し天下の逸品たり。

唐門 陽明門を去ること數歩の正面にあり。桁行二間一尺、梁間六尺三寸、四方棟唐破風造、正面破風上の屋棟に唐銅を以て製したる恙と稱する虫の形を裝置し、東西の棟上に長四尺の銅龍を蟠まらしむ。門は唐木造にして、龍虎、獅子等の彫刻を其柱に施したり。門の左右一道の瑞籬は長く本殿及び拜殿を圍み、金鍍を以て疊みたる五級の殿階は桁行十二間二尺、梁間四間五尺、高三丈二尺なる拜殿の前面に通じ、黒臘色の高欄、及び濱椽、惣金だゝみなる殿内の柱、高彫金を以て彩色したる承塵、唐草の蒔繪を畫きたる唐戸、折揚二重に重ねたる合天井、其の内に畫きたる紺青色の丸龍、承塵の上に揚けたる三十六歌仙の額、探幽の筆に成れる英西の襖、拜殿と石の門に界せる堆朱の卷柱等その美を盡し善を盡せる到底筆紙の盡すべきにあらず。殊に將軍着座の間より天蓋折揚造の天井を隔て、遠く本殿の深奥なる邊を望めば、金碧燦々として四方に映じ、思はず人をして跪座せしむ。一拜の後、陽明門に添ひたる廻廊を進めば、奥の院の入口に



猫門。あり。其の上に眠猫の状を刻せり。里俗傳へて左甚五郎の作と稱すれども信すべからず。それより坂下門を過ぎて、長さ大凡一町半を有せる石階を登れば、東照宮の奥社あり。外部は悉く銅板を以てこれを包み、前に唐銅の華表を建てたり。寶塔はその拜殿の正面にありて、徳川家康の魂魄は實に此の一杯の土中にあり。

二荒山神社。東照廟の表門を出で、更に西に松樹の間を穿つこと一町許り、右方一帯の高地にあり。日光三社の一にして、大己貴命を祭り、僧勝道の創建せし本宮より移したるもの、實に千有餘年を閱したる古社なり。華表は東に面して、東照宮表門の西方に當れり。本社は南向八棟造、方五間にして、總て朱を以て、これを塗れり。西南に化燈籠あり。正曆五年鹿沼入道教阿の獻納せし處にして、今猶刀痕を存せり。されど其の因縁に至りては、更に傳ふる處なし。前なる石階を下りて、下に二つの堂宇の相並ひて立てるを見る。東なるを常行堂といひ、西なるを法華堂といふ。共に朱塗にして處々に彫刻を施したり。二堂の間を穿ちて、更に杉樹の鬱蒼たる間を過れば、その一帯の高

地に慈眼堂あり。僧天海の廟にして、近年更に傍に北白川宮の廟を築造せり。

三代廟。徳川家光の遺骨を葬りたる處にして、東照廟と共に、その殿堂の美を以て聞ゆ。二堂を西に距ること數歩、二王門を入りて、寶庫あり。右に御手洗屋あり。東照宮の水盤に比して、其の美は及ばざること遠しと雖も、又觀るべき所なしとせず。銅、石造三百有餘の燈籠の併立する間を過ぎて更に一大門の北向して聳ゆるを認む。これ則ち二天門にして、桁行五間、梁間二間餘、丹堊にして處々に黄金を鏤めたり。鼓樓、鐘樓を過ぎて、夜叉門に達すれば、三代廟の特色ある建築は次第に眼前にあらはれ來り、その彫刻の疎なる中に無限の精巧をつくし、構造の質朴なる中に至大の力を盡したる、東照廟に比して更に遜色なきのみならず、進んで一步を擡んでたるの觀あり。夜叉門は桁行四間二尺、梁間三尺、丹堊黄金を以て之を飾り、左右の廻廊の美麗なる、復た物の比すべきなきを覺ゆ。左右に、捷陀羅、毘陀羅、烏摩勒、阿跋摩の四夜叉を安置したり。これその名の起る所以。左右の袖屏は更に數箇の長廊を得て、遠く本殿の背後を圍み、以て



方形の石垣に接せり。朝鮮國王の献したる燈籠はその左右に對立して以て唐門に迫れり。

唐門 間口一丈五寸其の構造東照宮と均しく、刻鏤の精、采畫の美を極め、瑞籬の拜殿

を圍繞せる黒臘色の殿階を設けたる皆同じ。

日光華嚴の瀧  
拜殿は東北に面し、桁行九間、梁間三間半、柱は皆白地にして縁に黄金を鏤めたり。殿内は六十三疊にして、中の間は十八疊、正面扉内には徳川家光の木像を安し、合天井は臘色、格子の内



は百間百色、紺地は金の蟠龍を彫刻し、承塵は花鳥を刻して金の彩色を施せり。正面な

る破目には金地に獅子を畫き、簷頭には二十四個の鍍金の釣燈をかゝけたり。ことに金色燦爛として、殆ど人目を眩するばかりなるは、中央にかゝけられたる金製の天蓋にして、其下に金梨子地の高机及び三具足の美を盡したるを据ゑたり。

本殿は方五間半、佛殿造二重屋根にして、其の周圍は朱塗なる欄と黒塗なる椽とを以てこれを透れり。仔細に精巧なる彫刻を見て、更に右の瑞籬を透れば、皇嘉門の龍宮に擬したる門は直ちに眼前にあり。これより十歩、奥の院に至る。

日光廟より十二町にして、

(イ) 含滿ヶ淵

に至る。對岸に石に刻んだ五百羅漢がある。こゝは紺碧の深淵である。こゝより二十餘町にして

(ロ) 裏見瀧

に至る。(電車ならば裏見道で下車する。日光驛より十五錢、十五分を要する。)又俾で瀧の



手前數町の所迄ゆくことが出来る。この瀧は裏から見ることが出来るのが特徴だが、先年洪水の爲めに瀧はくずれて舊態を失つた。こゝから馬返しの下觀音寺の停留場へ出る道がある。森道で、頗る氣持がよい。約三十町。

裏見の上流に慈眼瀧がある。道は頗る險である。素麵の瀧（東照宮を左にして登ること三十町）寂光七瀧（電車田母澤橋に下車、四十五分にして達する）霧降瀧（神橋より一里片道一時間半を要する。俣往復三圓）などあるが、一泊旅行では立寄る暇がない。何しろ日光には七十二瀑と云はれる位に瀧が多いのだが、全部を見るなんてことは到底出来ない。

#### （ハ）方等般若の瀧

馬返し迄は、電車がゆくが、夫れから上は、電車の便はない。馬返しから中禪寺湖畔迄二里（新道）秋の紅葉は特によい。人力車は二人曳で片道四圓五十錢。下山ハニ人六円。深澤の茶屋から、女人堂を廻り、少し登ると右方に方等般若の瀧が見える。茲に茶屋が

ある。この邊の紅葉は特によい。中ノ茶屋から不動坂を登りきると、白樺、山毛櫸の寒帯林になる。

#### （ニ）華嚴ノ瀧

中禪寺湖から九町ばかり手前に茶屋がある。こゝから十二三町下ると、白雲の瀧をすぎ、華嚴の瀧を大觀することが出来る。瀧見茶屋から見た丈けでは不十分である。どうしても下りて見なければならぬ。中禪寺の水は、直下三百三十尺、即ち華嚴の瀧となるのである。

瀧見茶屋から九町にして、中禪寺湖畔に達する。

#### （ホ）中禪寺湖

昔は、中宮祠湖と云はれたのである。東西三里、南北一里、二一、三九方軒で、大ききから云へば我國第三十八位である。水深最も深き所九十餘尋。

以前には、この湖は、男體山の火口原と考へられてゐたが、決してさうでない。兩岸の



地質の相違から観察すると、湖盆は石英班岩と花崗岩とからなつてをる。而してこの地盤は往昔侵蝕作用をうけて、白根山麓より日光鉢石に至る大きな窪地をつくつた。然るに何時の頃か、男體山が噴火して、灰をとばし熔岩を流して其一部を堰き止めたのである。而して上部は、今日の中宮祠湖となり、下部は、今日の大谷川となつたのである。この湖を發見した人は、勝道上人（日光山を開いた人）で、夫れは今を距る千二百年前神護慶雲年間であつた。

湖畔は、海拔四千四百尺、夏猶秋のやうな風候で、避暑に適する。外人の別荘が多い。舟を湖上に浮べるも面白い。但し水泳はしない方がよい。（水温がつめたいから）和船は一時間一圓、二時間目から一時間五十錢。ボートは一時間一圓、半日三圓、一日四圓である。釣りは、帝室林野局日光出張所の許可をえなければならぬ。旅館で、其手続きをしてくれる。（半日一圓、一日二圓、三日間四圓）二荒山の中宮祠には是非御詣りしなければならぬ。（湖水には阿世瀉、歌ヶ濱、菖蒲ヶ濱、千手ヶ原、其他名勝がある。）

旅館はレーキサイドホテル（外人向）米屋、蔦屋等である。大正十三年夏季に於ける避暑客延人員七千七百九十六人、外人四百十九人であつた。

（へ）男體登山

中宮祠の所から登る。登路三里。海拔八千九百九十尺。山上の風光雄大である。頂上に二荒神の奥ノ宮がある。八月十五日より一週間、九月二十日より三日間は、白衣の講徒が群をなして登る。此山にはナギが多い。一つ迷ひ込むと一命を失ふことがある。ナギへ迷ひ込んだら先きへ進まずに、元來た所へ歸ることを忘れてはならぬ。往復六時間を要する。

（ト）戰場ヶ原

中禪寺から湯本温泉迄三里。（俵賃二人曳片道四圓、馬車四人乗賃切四圓共に二時間を要する）道は平坦ではないが、さして急坂もないから、徒歩の方がよい。中禪寺より湖畔を通り、菖蒲原濱をすぐれば、戰場ヶ原である。道の左右に龍頭の瀑がある。荒涼寂寞たる有様は、其名にそむかない。植物採集家にはアツラへ向きである。



湯本間近になると、「湯瀑」としるした標石がある。左に入ること二町の奥にある。湯ノ湖の水が溢れて、奇観をなす。瀑に添ひ急坂を登れば、戰場ヶ原から来た道に合する。眼前に湯ノ湖が浮んで見える。道は湖畔を縫うて進み、森林を抜けると、湯本温泉である。

(チ)湯本温泉

白根山の東麓にある。海拔五千尺、河原湯、緞子の湯、中の湯等に分れ、三方は山、一方は湯ノ湖に面してゐる、無色透明の硫黄泉で、(百度乃至百五十度)胃腸病、皮膚病、リューマチス、脳病に効がある。旅館は、南間ホテル、米屋、釜屋、板屋吉見屋等で、宿泊料は一圓五十錢以上。ホテル以外では、自炊、貨間の制度がある。

こゝから白根山へ僅かに三里、前白根から奥白羽の噴火口をたずねるもよい。(八千八百尺、東麓に五色沼がある)又金精峠へゆくもよい。或は、蓼湖、切込湖、荊込湖に舟を浮べるもよい。遊ぶには少しも困らない。(湯本温泉では、冬は、番人をおいて、大部分の者は麓へ下つてしまふ。四月十四日に湯開きをし、十一月十五日に下山する。けれ共近年は

學生などが冬出かけるので宿屋一軒だけは營業するさうだ。

△湯ノ湖は、面積三十七町二反六畝。深さは平均十米にすぎない。(一番深い所で十三米五)成因から云へば閉塞湖である。凹地が熔岩の爲めに閉塞されて出来たのである。魚すますと云はれたが、今では養殖してゐる。

△蓼湖、荊込湖、切込湖(切込ともかく)湖は表面排水口のないもので、閉塞盆地をつくつてをる。四周急斜の山腹にかこまれ、安山岩熔岩と湯原岳の龍紋岩とが双方から流れてきて閉塞したのである。

荊込(狩籠)湖については、勝道山人登山の頃犬蛇がゐて、いろ／＼害をするので、之を追ひ込んでしまつた所だと云ふので、此名があるとのことだ。深秘境にふさはしき傳説である。

(リ)日光より足尾へ

日光町から、大谷川に沿ふて清瀧に至り、こゝから左りに道をと、細尾峠(四千五百尺



をこえて足尾にゆくのである。行程七里半。歩いて六時間はたつぷりかゝる。二人曳の俵で十圓。

中禪寺から足尾へゆくにはアセカタ(阿世湯)峠をこえて二里半。アセカタ峠は中禪寺湖に面した方面は樹木鬱蒼としてゐるが、反対の(足尾に面した)方面は、樹木皆枯れて、全くのハゲ山である。鑛毒の恐ろしさを物語つてゐる。

### 鬼怒川鮎獵

— 代 —

寶積寺驛(上野驛より一圓七十八錢)の西六町。鮎獵地として悪くはないが、借しい哉東京からの距離が遠すぎるし、わざ／＼行く程のことはない。(この驛の東五里に烏山の町があり。天性寺に、那須の與一の墓がある。)

### 鹽原探勝

鹽原は、日本屈指の温泉郷であり、天下稀れに見る風景のすぐれた所である。下野鹽谷郡の北端に位し、下、中、上、湯本の四字に分れて戸數僅かに三百五十。

東北本線西那須野驛から、五里乃至八里の間に、十ヶ所の温泉場があり。箒川の溪流に沿つて、飛瀑あり、奇巖あり、碧潭あり、造化の妙を盡くしてをる。

上野驛より西那須野迄

四時間三十九分

二圓十八錢

西那須野より新鹽原迄(軌道)

一時間

五十五錢

新鹽原から、各温泉へ自動車の便がある。西那須野からスグ自動車で行くとすれば、各温泉迄四人乗貸切十二圓内外である。

東京から一泊旅行も出来るが、如何にもせはしない。二泊ならば、ゆつくりだ。

△明治十三年頃迄は、那須野は荒涼たる草原であつた。この原の開墾に手を着けたのは、三島通庸氏であつた。西郷大山兩家もこの事業に手をつくし、今日の那須の開墾地が出来上つたのである。



きつねなくなすのが原も今年より

稲葉そよぎて秋風ぞふく

三島通庸

金色夜叉(尾崎紅葉云ふ)

西那須野の驛より直ちに西北に向ひて、今尙茫々たる古の那須野の原に入れば、天はひろく、地は遙かに、唯平蕪の迷ひ、断雲の飛ぶのみにして、三里の坦途、一帯の重疊、鹽原はそこぞと見えて行く程に道は窮らず、漸く千本松をすぎ、進みて關谷村に到れば、人家盡る所に涼々の響ありて、之に架れるを入勝橋と爲す。

即ち橋を渡りて僅に行けば、日光冥く、山厚く疊み、嵐氣冷かに壑深く陥りて、幾廻りせる蔦折の、後には密樹に聲々の鳥呼び、前には幽草歩々の花を發き、逾躋れば、遙に木隠の音のみ聞えし流の水は浅く露はれて、驚破や、斯に空山の雷白光を放ちて頽れ落ちたる乎と凄じかり、道の右は山を割りて長壁と成し、石幽に蘇碧として、幾條とも白絲を亂しかけたる細瀑小瀑の珊々として潑けるは、嶺上の松の調も、定めて此緒より

やと見捨て難し。

車を驅りて白羽坂を踰えてより、回顧橋に三十尺の飛瀑を踏みて、山中の景は始めて奇なり、是れより行きて水あり、水有れば必ず橋あり、全溪にして三十橋、山有れば巖あり、巖あれば必ず瀑あり、全嶺にして七十瀑、地あれば泉あり、泉あれば必ず熱あり、全村にして四十五湯、猶數ふれば十二勝、十六名所、七不思議誰か一々探り得べき。

抑々鹽原の地形たるいたる處、巉巖の水を夾まざるなきは、宛然、青銅の藥研に、瑠璃末を碎くに似たり。先づ大網の湯を過れば、根本山、魚止瀧、兒ヶ淵、左鞆が嶮は古りて、白雲洞朗に、布瀧、龍ヶ鼻、材木石、五色石、船岩など眺め行けば、鳥井戸、前山の翠、衣に染みて福渡戸の里に入るなり。それより途すがら、前面の崖の處々に咲き残れる躑躅、山藤など打ち眺めて、車を急がす程に、鹽釜の湯、甘湯澤、小太郎ヶ淵など夢のやうにすぎて、いつか畑下戸の里に着きぬ。

新湯を除く他は、すべて、鹽類泉で温度は百三十度内外。大體に於いてリユーマチス、子



宮病、貧血諸病に効がある。大網は、ラヂウムを含有すること特に多い。宿泊料は、大體に於いて二圓乃至五圓。

(イ)大網温泉

新鹽原より一里八町(俵賃六十錢、馬車賃四十錢、旅館大網)この湯は元助の湯と云はれ、下鹽原の共有で、村に困窮者があると、其人の爲めに温泉を借用して、其収入で負債を償つてやつたものだ。面白い制度があつたものだ。先年佐藤旅館の主人が、村から永久に借用權を購つた。

こゝから福渡戸にゆく間に、稚兒ヶ淵、左鞆、白雲洞、村木岩、五色岩、魚止、潜龍の瀧などあり眺めは頗るよい。

(ロ)福渡戸温泉

大網より二十七町(新鹽原より俵賃九十錢、馬車賃六十錢、旅館和泉屋、磯屋、松屋、丸屋等)海拔千百五十尺。こゝより天狗巖、野立石、七つ岩、妓女高尾の塚など眺めつ

ゝ八町にして鹽釜温泉に至る。

(ハ)鹽釜温泉

昔山鹽を焼いて賣いた跡と云はれる、郵便局はあるが、旅館の設備は悪い。こゝより鹽湧橋をわたり鹿股川に沿うてゆけば鹽ノ湯へ出る。

(ニ)鹽ノ湯温泉

福渡戸から二十町(新鹽原より一圓十錢、馬車賃八十錢、旅館は明賀屋、玉屋、柏屋等)鹽ノ湯から鹿ノ股に沿うて上る一里の間に、咆哮、霹靂、活甕、素練、雄飛等の瀧がある。

(ホ)畑下戸温泉

福渡戸より十三町(新鹽原より俵賃一圓、馬車賃七十錢、旅館清琴樓、紙屋、天和屋、賀治屋等)こゝから門前へ三町、須卷へ八町。

(ヘ)門前温泉



福渡戸より二十町。(新鹽原より俵賃一圓、馬車賃七十錢、旅館は宮田屋、松本屋)古町と共に全村物資の集散地である。妙雲寺(小松内府重盛公の姨妙雲尼の開基)があるの  
で門前の名が起つた。

(ト)古町温泉

福渡戸より二十一町(俵賃馬車賃門前に同じ、旅館は米屋、楓川樓、上會津屋、中會津屋)上鹽原へ一里新湯へ一里。

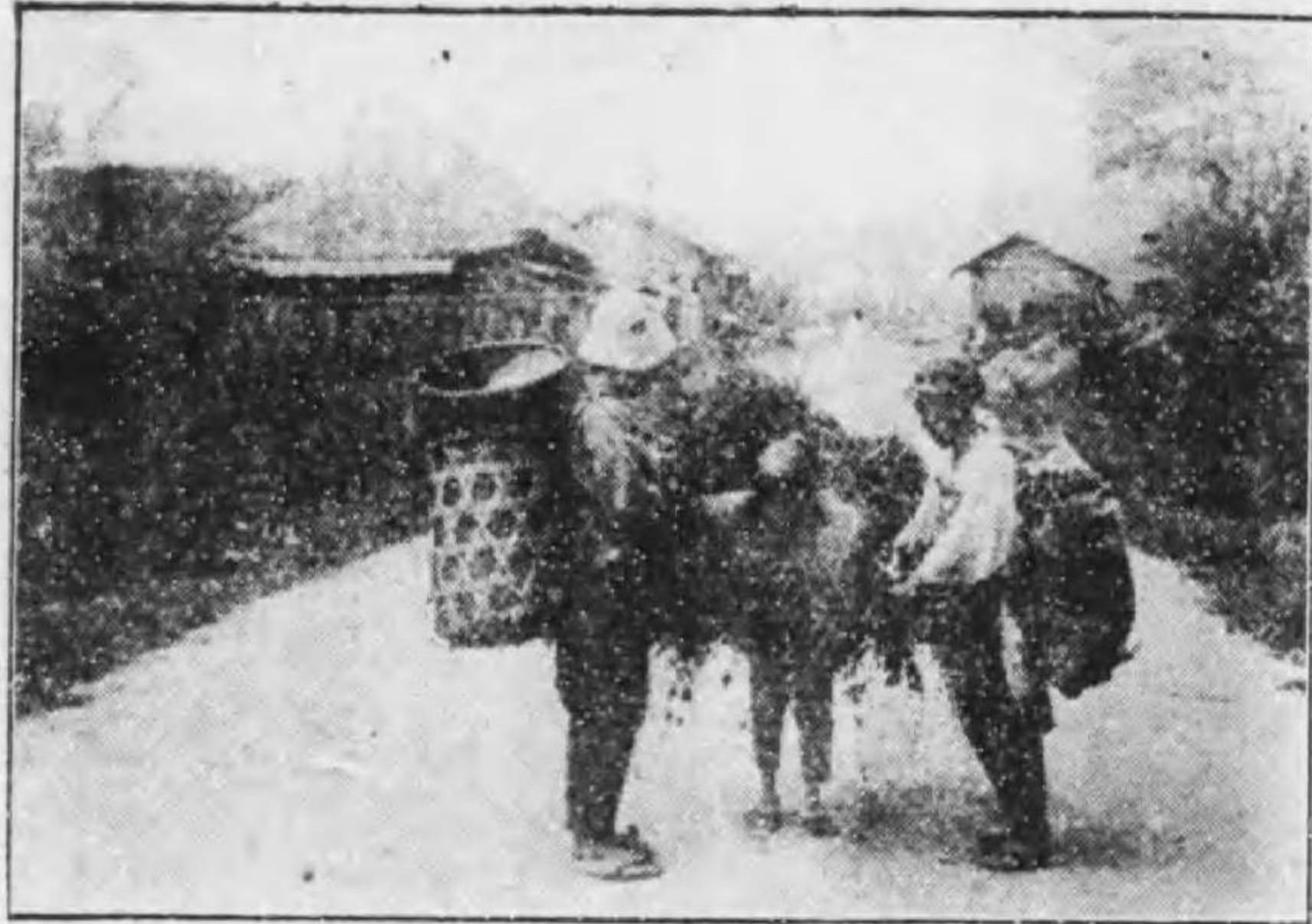
(チ)須卷温泉

福渡戸より二十七町。車馬の便はないから、徒歩せねばならぬ。喜十六山の中腹にあり北に須卷澤がある。湯瀧がある。こゝには名物の團子がある。

(リ)新湯温泉

古町の西南二里。こゝ丈けは、硫黄泉である。旅館藤屋。

(ヌ)古湯本温泉



野州鹽原婦人の俗風

古町より三里半。新湯から三十町。温泉宿は原泉館一軒である。

△鹽原山は、火山で、高原火山群の一部である。

山體は二個の火山の集合よりなる。一は北にある鹽原火山(前黒山)他は釋迦ヶ岳であつて、鹽原火山より新らしく成立したものである。

△松村博士云ふ「鹽原は秋の紅葉は美觀だが、植物の種類は山が浅いから少いけれど、素人が植物を研究するには鹽原で十分である。

日光、鹽原には、野州と云ふ山脚躑が澤山にある。

△那須野は太古海であつた。土地の際起に依つ



て、原が出来た。そこへ山から川が縦横に流れてきて河原を作った。那須野から鹽原に入る。それが峽谷の標本である。古町から山間開けて盆地となる。昔火山噴火の後に、湖を生じ、其水が流れ落ちた跡が古町から上鹽原に亘る盆地である。

△上鹽原から、山路を分けて西に進めば尾頭峠へ出る。之を越えて南にゆけば日光、北にゆけば會津街道へ出る。

△鹽原は有名な化石の産地である。第三紀層中から出る化石の質が、緻密なる火山灰から出来た岩の中にある爲に完全に保存せられてゐる。植物化石、貝石が出る。これらの化石は少なくとも百萬年以前のものである。又この山間から古代像の遺骨の一部が出た。この邊も嘗ては、熱帯であつたことがあるのだ。

### 那須七湯

黒磯驛（上野驛より五時間、二圓三十二錢）で下車する。驛から一番近い所にあるのが

湯本温泉で、那須七湯の入口である。黒磯から湯本迄自動車賃三圓、馬車賃一圓五十錢、俵賃二圓五十錢。

那須七湯（湯本、高雄股、辨天、大丸、三斗小屋、板屋を云ふ。今では之れに旭湯が加つて實は八湯である。）は那須岳の周圍にある。那須岳は、有名な活火山だ。五峯並列し、茶臼山が盟主で六千四百尺、盛んに白煙を吐いてをる。湯本から茶臼岳の頂上へ二里。七湯中、都人士の多く出かけるのは、湯本温泉である。

#### （イ）湯本温泉

那須七湯中、第一の繁華地である。無色透明な酸性硫黄泉で、温度百二十度、皮膚病、脳病、脚氣、眼病に特效がある。海拔三千尺。夏猶秋の氣候である。

附近には、喰初庵、温泉神社、九尾の狐で有名な殺生石等がある。初夏の候の躑躅は、一大美觀である。

旅館は、小松屋、松川屋、立花屋、和泉屋、常盤屋其他。宿泊料二圓以上、自炊式もあ



る。

那須の湯は、古來歴史にあらはれてをる。鹽原よりも有名であつたのだから、現在では鹽原に押されてをる。

温泉由來記云ふ

人皇三十四代 舒明天皇の御宇狩野三郎行廣といふ武士ありけり。勅宣を蒙り郡司となりて茗荷澤村に住居す、其頃年ふりたる鹿あり、惣身白くして小牛の如し、三郎行廣弓術の手たれなりしかば、兼て彼鹿を射留んと心を配りしが、兩三度も射はつしぬ。三郎不審は晴やらず、ふと古歌を思ひ出し、

狩人のさつ矢の先に立鹿の、ちがひをふめば中らざりけり、

といふことあれば、としふる鹿なれ、さることもやあらんと、思ひしがいかにもして射留んことを欲ししに彼鹿、里にいで耕作をあらしけるを見て、矢ごころ少し遠けれど、ねらひよりてひやうと、射れば手ごたへせしが、鹿は其まゝ山奥に逃げ入りぬ、

後をしたひ、深く尋ね入り雪不盡山ゆきふじんのふもとなる、霧雨が谷にいたれば、雲霧朦朧として行方を失ひ忙然としてやすらふとき、谷川の上を見れば枯木のたふれたる上に、白髪しろがみの老翁あり。(之をかたどり後に神橋となす)三郎に告て曰く我は温泉の神なり汝のたづぬる鹿は、向ふの谷間の温泉に居れり、此温泉は萬病を治す取立て萬人の病苦を救ふべし、冷熱の二泉或はすく或はしぶく或はしははゆく、病症しるしあらざるはなし、能く其病根を考へきながく、ゆあみすれば、五體を順和し、自然に治すべし、ゆめ／＼疑ふべからず、鹿の入りしも、其矢疵を癒さん爲なり、早く射留むべしと、をしへて姿は失せぬ。三郎奇異の思をなし其所に行きて、谷を望めば、彼白鹿、温泉にひたり居れり、矢ごころもよしと、ひきかため、ひやうと、はなてば、思ふ矢つほを射留めぬ。(今導く温泉の出口にて舊鹿の湯と稱す)急ぎ走りて見れば、常の鹿とは異れり、之に依りて神託の如く温泉を開き鹿の湯と稱し、温泉の社を建立し、彼鹿の角を奉納す。萬字の角の神寶これなり、夫より鹿野三郎と改稱す、(蓋し祀の角と名づ



けしは、水戸光圀卿なりと云ふ。夫れ鹿は春日大明神の愛し給ふ獸なれば、此大明神と同體を、見立大明神と祭り奉れり。

舒明天皇八年、狩野三郎卒す。温泉開闢の功によりて、同社相殿に祭れる後慶應元年六月二十七日正一位を賜はる。

同帝五年より二百三十五年を経て五十六代。清和天皇貞観五年十月七日。丙寅、下野國從五位上勳五等温泉神に、從四位下を授け、那須郡の惣社たることを下し、賜りける、同十一年二月二十八日丙辰從四位上を授けられ、後數十代を經。百十二代靈元天皇貞享三年六月十九日。正一位に叙するの勅宣を蒙れり。即ち延喜式内、下野十一社の中なり、明治六年一月郷社に編入せらる。

(ロ)大丸温泉

湯本より三十町。鹽類泉で、胃腸病に特效がある。湯は河岸の斷崖から湧く。内湯にひいた残りは川へ流すので、溪流は常に、入浴に適する位の暖かさである。溪流の自然浴

も面白い。旅館は大高。茲は學生向きである。

(ハ)辨天温泉

大丸の隣りである。旅館は小林。

(ニ)北温泉

湯本より一里。弱鹽類泉、小供の病、不妊症に効がある。この湯に入ると奇妙に子供が出来るると云はれてをる。旅館は熊谷。室数は三百からある。

(ホ)高雄股温泉

湯本より十八町。硫黄泉で、皮膚病、腦病に効がある。殺生石は、この温泉の附近である。旅館葭屋。

(ヘ)板室温泉

湯本より三里半。鹽類泉、リニューマチ、神経痛にきく。旅館大黒屋、一井屋等。此地は湯本に續いて名高い。



(ト)三斗小屋温泉

湯本から三里、大丸から一里。戊辰役の激戦地として維新史を飾る地である。牛背に依つても米三斗以上は運べないと云ふのでこの名がある。旅館は、大黒屋、煙草屋。

△脚氣患者、癩癩病、心臓病、肺結核の者は、入湯してはいけない。

入浴心得

一、十二歳以上の男女混浴の儀は規則の嚴禁する處に候へば御心得違ひ無之様相願ひ候且つ裸體外出の儀御斷り申上候

一、體質の強弱により入浴の仕方は一定致し兼候へ共普通は左の通り御心得有之度候事

(い)温度 華氏寒暖計百度内外を適度と致し候若し熱湯御好み有之候共百十五度を越えざる事

(ろ)度数 入浴の初めは日に三回夫れより順を逐ひ五回を限りとし先づ頭に柄杓にて五

十杯以上湯を被り而うして後入浴すること宜敷候

(は)時間 朝五時より夜十時までとし五分より十五分までを適度と致し候

但し空腹酩酊又は食後一時間を経ざるときは御入浴無之様相願ひ候

(に)湯瀧 足よりかゝり漸次腰肩に及ほし腦天は御無用に相願ひ候

但し九十度内外の温度にて五分より十分以内は適度に有之候

一、入浴中身體に異常を來し候時は直に宿主へ御申出醫師の指揮を受けられ度候

一、白粉を附けたる御婦人は水にて洗ひ且つ頭髮の油を洗落し其後入浴の事尙又温泉にて石鹼御仕用は堅く御斷り申上候

一、「たゞれ」は病的に無之普通入浴後十日前後にて發熱候も「たゞれ」の前兆なれば御心配御無用尙は手入方は宿主に御相談被下度候

一、唾壺の外へ「たんつば」を吐くこと堅く御斷り申上候

一、浴後は乾きたる手拭又はタオルにて全身を拭燥し而して後着服すること宜敷候



- 一、飲食物は可成的滋養分あるものを選び且つ酒色を慎むこと專一に有之候
- 一、毎朝通常の茶碗にて半分位（水又は砂糖を和するも良し）鑛泉を内服 且つ浴後茶コ  
ーヒー等を飲用するは宜敷候

但し胃弱の御方は鑛泉内服御見合せ願ひ上候

- 一、温泉場にありては務めて野外運動をなし新鮮なる空氣を吸收せらるゝこと肝要に候
- 一、人々の忌避する病ある御方は特別に設けある浴舎に於て御入浴致され他の浴室に入ざる様御注意の事

- 一、入浴中は放歌高聲をなし且つ他人の入浴を妨げ風俗を害する所爲無之様相願ひ候
- 一、金屬の物は硫化するを以て取扱ひ御注意肝要且つ被服類を温泉にて洗濯するは宜しからず候

- 一、身體御不自由の御方御入浴の際は必ず看護人御附添へ被下度候

- 一、入浴次第皮膚自然に清淨に相成候につき強く御洗ひ御無用に候従つて皮膚の排泄盛んに相成候ため便秘を來し候時は下劑御用ひ可然候

### 遊行柳

黒田原驛（上野驛より二圓四十二錢）下車。東南約一里、謠曲遊行柳の舊跡である。

### 白河關址

白河驛（上野驛より二圓六十一錢）下車。關址は、白河驛の東南三里にある。（町の北端に城址がある。松平樂翁公の名は天下に鳴りひびいてゐた。）地は左右に峯巒連亘し谷をなし、其間を狭い山道が通じてをる。これが昔の奥州街道で、今は白河神社がさびしくおさまつてゐる。

新選名勝地誌云ふ。

白河關址 白河停車場の南二里半、古關村大字旗宿にあり。伊勢鈴鹿の關、美濃不破の



關と共に日本三關の名甚だ高く、その創置は凡そ四百餘年前の昔にあるべしといふ。著名なる能因法師の歌「都をば霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白河の關」の和歌は、足跡事實この地に及んで詠めりしにはあらずとするも、また以てその行路の容易ならざりしは窺知するに足らん。地は實に往時の陸羽街道に當り、陸羽に入るの咽喉とも謂ふべし。蓋し宇都宮より板戸、鹿子畑、黒羽、箕澤等の小驛を過ぎて、この關門に至れるものにして、後世の奥州街道に對してこの路を關街道と稱せりきといふ。思ふに交通不便の昔時にありては、陸奥は實に遼遠の地、僻陬の域にして、京人一度この關を超ゆれば恰も漢人胡に入るの思ひありたらん。今や東京より白河に至る僅々半日程に過ぎず、これを京阪の地よりするもまた二日を要せず。今にして「秋風ぞ吹く」と詠けん昔を追想すれば、時勢の變化文明の進歩、今更ながら驚かるゝ許りなり。而して旗宿の地たる關山高く峨々として聳え、頂上に一古寺あり。地高く一路その間を通じて岐路の出づべきなく、寔に要害の地點なり。また白河と稱する一溪流あり、源を旗宿の南方里餘のとこ

ろに發し、流れて古關址の下を過ぐ。白河の名は實にこれより起ると傳へらる。河の畔に九重楓あり、古歌に白河關の紅葉を詠めるはこれなり。近年この景を探り、服帛に正葉摺となして白河土産とせり。また路傍に村社白河神社あり。即ち關守の内館址とす。關址はもと久しく堙滅してその所在を知らざりしが、寛政年間白河樂翁公地理に考へ、誌書を参照して初めてその地が關址にあたるを確め、碑を建て以てこれが標とせり。今、白河神社の前にあるもの即ちこれなり。而して關門起廢の年代に就ては、二三の異説ありて未だこれを詳かにせざるも、要すに官設の關門にあらずして、この國の國司の私に設けたるものゝ如し。

『つてあらば都の人につけやらんけふしら河の關は越えぬと』を始めとして白河關に關する古人の名什甚だ多し。此には故人の紀行一二を引かん。釋宗長が『都のつと』に曰『春よりいで侍りしに、又この秋の末に、白河の關をこえ侍りしかば古會部の沙彌能因が「都をば霞と共に立ちしかど」と詠じけるは、まことなりけりとおもひあはせら



れ侍り。かの能因、がこの歌のために、猶その境にいたらでよめらんは無念なりとて、東へくだりたるよしに、しばしこもりて、この國にて讀みけると披露しけるとかや、一度はうるはしく下りけるにや。八十島の記などいふものかきおきて侍り。『芭蕉の『奥の細道』に曰く『心もとなき日數かさなるまゝに、白河の關にかゝりて、旅心定めぬ。いかで都へとたより求めしも、野らなり。中にもこの關は、三關の一にして、風騒の人心を留む。秋風を耳にのこし、水葉を面影にして、青葉の梢、なほあはれなり。卵の花の白妙に、茨の花の咲き、添ひて雪にも越ゆるこゝちする。古人冠を正し衣裝をあらためしことなど、清輔の筆にも留め置かれしとぞ。卵の花をかさしに關のはれ着かな、曾良』

### 南湖公園

白河驛の南半里。(一名關の海) 樂翁が、湖畔に、十七勝十六景を選び、十七勝には各々

和歌、十六景には各々詩を賦し、石に刻して湖畔に建てた。今では公園になつてゐる。湖の東北に搦山がある。櫻の樹が岩石の間に點綴してゐる。元弘當時勤王の土結城宗廣、親光らの城墟で、山より斷崖に、樂翁公の書で「威忠銘」と入刻してある。

### 甲子温泉

白河驛の西六里。白河から折口迄俵がゆく(一圓二十錢)又白河から馬立迄人力車二人曳でゆける(八圓)馬立から温泉迄一里四丁の間は、馬か徒歩でゆく。温泉は甲子山の中腹にあり、山頂迄三里。海拔四千八百二十五尺。甲子八十八瀑と云ふて、温泉附近に瀑布が連続してゐる。温泉宿は、阿武隈川の上流に臨んでゐる。秋の紅葉は特によい。無色透明の鹽類泉で、脳病、胃病に特效がある。旅館は水野屋、自炊客が多い。

### 母畑鑛泉



須賀川驛の東五里。(途中石川町迄自働車賃一圓五十錢。石川町より母畑迄馬車賃三十錢) 北須川の清流に臨み、愛す可き郷ではあるが、わざ／＼ゆく程のことはない。弱アルカリ性の硫黄泉で、皮膚病、胃腸病に効がある。旅館は湯原亭、湯本亭(宿泊料一圓五十錢以上)

### 安達原黒塚

二本松驛(上野驛より三圓二十七錢)の東半里。謠曲安達原(實生流では黒塚)の舊蹟である。

みちのくの安達原の黒塚に

鬼こもれりと云ふはまことか

### 嶽温泉

二本松驛の西二里十九町。(俵賃一圓五十錢、馬車賃七十錢) 海拔二千六百尺。安達太郎山の麓にあり、四面丘陵をめぐらしてをる。酸性泉で皮膚病、婦人病に効がある。(遠藤の瀧は一見の價値がある) 旅館は扇屋、岳屋、石澤屋、港屋等で、自炊制である。

### 土湯温泉

金谷川驛から二里三十町。道はさして悪くないから徒歩でブラ／＼いった方が趣味がある。

この温泉へは、松川驛(三里) 福島驛(五里) 二本松驛(五里) 奥羽線庭坂驛(三里三十町) などからもゆける。地は、吾妻山麓、山中の別天地である。秋の紅葉は、特に著名である。吾妻山頂迄三里。湯の種類は非常に多い。

(イ) 湯本中ノ湯(鹽類泉)

旅館木村屋、津田屋、中村屋、泉屋等。



(ロ)新瀧(鐵鑛泉)

大和屋、盤城屋、信夫屋等

(ハ)川上温泉(鹽類泉)

川上旅館

(ニ)野地温泉(硫黄泉)

加藤屋

何れも婦人病、皮膚病、打撲傷、腦病に効がある。宿泊料は極めて低廉で一圓五十錢以上。自炊客が多い。

### 福島の名勝

福島は(上野驛より三圓四十九錢)板倉氏の舊城下で、機業の盛んな地である。福島で見るときは信夫山公園である。市街の北端驛の北半里にある。山上に櫻あり風光雄大。福

島の全市を大觀することが出来る。

暇あらば、驛の東北一里半。當國の歌枕文字摺石を一見すべし。

みちのくのしのぶ文字摺誰ゆゑに

亂れそめにし我れならなくに

河原左大臣

### 飯坂温泉

伊達驛(上野驛より三圓五十九錢)の西三十町。伊達からも福島からも軌道の便がある。(伊達から十一錢、福島から二十七錢)飯坂は東北屈指の名温泉であるが、今では遊樂境になつてをる。貧乏人のゆく所ぢやない。浴舎は皆摺上川に沿うて建てられ、前から見れば、普通の平屋のやうであるが、河面から見れば、皆三四層の高樓である。

鵬城址公園(佐藤庄司のよつた所)佐藤氏の菩提寺であつた醫王寺などは一見の價値がある。



飯坂の諸泉は、無色透明の鹽類泉で、神経痛、脚氣、リユーマチスに効がある。花水館赤川屋、角屋等は、有名な旅館である。又極めて低廉に泊りうる旅館もある。

### 湯野温泉

摺上川を挾んで、飯坂温泉と相對してをる。無色透明の鹽類泉で、効能は、飯坂と同じである。旅館は稻荷屋、泉屋、佐藤屋等宿泊料一圓五十錢以上。飯坂よりも物價は低廉である。

### 穴原温泉

湯野温泉から約半里。摺上川の上流にある。鹽類泉で、梅毒に特效がある。旅館吉川屋、宿泊料一圓五十錢以上。自炊の制度がある。

### 靈山

伊達驛の東北三里。掛田迄軌道がある。そこから一里。靈山神社は、勤王の士北畠顯家父子を祀つた別格官幣社である。靈山の頂上へ登ると、太平洋の煙波を見ることが出来る。案内者を雇つて登るがよい。

### 桑折鑛泉

桑折驛（上野驛より三圓六十四錢）の南僅かに三町。單純鹽類泉で、貧血病に効がある。旅館金茂屋、宿泊料一圓五十錢以上。

### 鎌先温泉

白石驛（上野驛より三圓八十六錢）の西一里三十町。（俵賃九十錢、馬車賃八十錢）翠巖山



四方を圍み、極めて静寂な地である。眺望は乏しいが、靜かに暑をさけるには眺へ向きである。鹽類泉で、創傷、腺病に効がある。旅館は、一條、木村屋、最上屋、鈴木屋等。宿泊料一圓五十錢以上。

白石は舊片倉氏の城下。戊辰の役に際し、奥羽二十餘藩が盟を結んだ地である。其城址は驛の西四町。

この地は、鎌先、小原、遠刈田、青根諸温泉の出発點である。

### 小原温泉

白石驛の西二里十町。(馬車賃一圓二十錢)白石川の上流、桂澤山の麓にある鹽類泉で、温度があつすぎるので河水を入れて調節してをる。旅館、和泉屋、沈流閣、桂屋等。宿泊料一圓五十錢以上。

### 遠刈田温泉

白石驛から西北六里。永野迄自動車(一圓)永野から仙南軌道で温泉へゆく。(三十錢)この地は、不忘嶺、青麻山等の山々にかこまれ、松川の溪流に臨み、頗る幽邃の境である。温泉も五ヶ所から湧くし、鹽類泉と炭酸泉の二種類がある。何よりもよいことは、ラヂウムを多量に含有してゐることである。旅館は、佐藤源兵衛、小室市之丞、村上源平、遠蔵キセ等で、自炊が主である。

### 峨々温泉

遠刈田温泉から二里半。駄馬に跨つてゆく。この地は藏王山中にあり、海拔三千尺。眺望は頗る雄大で、遠く、松島金華山を双眸におさめうる。附近に瀧も多い。アルカリ泉で、胃腸病、子宮病に効がある。旅館は、竹内貞也で、宿泊料も極めて低廉である。



## 青根温泉

白石驛から八里強。遠刈田温泉の西二里。俵賃(九十錢)馬車賃(七十錢)

この地海拔三千三百尺、三方は峯巒、東は潤けて、遙かに松島金華山を眺めることが出来る。浴場の宏大なこと、土地の幽邃なことは、全國屈指と云はれてゐるが、何分にも、僻地であるが爲めに餘りに知られてゐない。温泉も三ヶ所から湧き、湧出量も頗る多く大湯の如きは、二條の飛泉となつて落ちてゐる。無色透明のアルカリ性の鹽類泉で、リユーマチス、婦人病に効がある。旅館は佐藤仁右衛門、丹野七兵衛其他で、宿泊料は極めて低廉である。自炊客が主である。食物は其種類極めて少ないからして、多少用意してゆかなければならない。

## 秋保温泉

長町驛(上野驛より四圓二十五錢)の西四里。秋保石材軌道の便がある。(仙臺へ五里)其地三面は山、東方は開けてをる。名取川の北岸にある。人皇三十代欽明天皇小瘡を患ひ給ひ、その折りこの温泉の湯の花を召されしに、日ならずして御快癒遊ばされたので、感斜めならず。

おほつかな雲の上迄みてしかな

とりのみゆかはあとかたもなし

と御製を賜ふた。これより、名取の御湯として、日本三御湯の一として其名天下にあらはれた。中世以來伊達公もこゝに浴館をおかれた。鹽類泉で、胃病、脚氣、婦人病に効がある。名勝も非常に多い。温泉の西三里に秋保大瀧がある。高さ二十四丈、深さ八丈、雌雄二瀑に分れて、晝猶暗き密林の中にかゝつてをる。旅館は、佐藤勘、水戸屋、岩倉屋等で宿泊料は極めて低廉である。自炊客が主である。



## 仙臺の名勝

仙臺（上野驛より十一時間十七分、四圓三十錢）は伊達氏六十萬石の舊城下で、東北一の大邑。西に青葉山を負ひ、西南に廣瀬川、東に宮城野の廣野がある。

### (イ) 青葉城址

市の西、伊達政宗が再築した名城である。今第二師團の司令部がある。

### (ロ) 經ヶ峰靈廟

伊達政宗侯以下二代の墳墓がある。正宗山瑞鳳寺は、東京の増上寺に比すべきものである。

### (ハ) 櫻岡公園

櫻岡神社の境内を公園としたのである。

### (ニ) 榴ヶ岡

驛の東十町。昔は躑躅が多かつたが、今は櫻の名所となつてゐる。

### (ホ) 青葉神社

市の北端にある。伊達政宗公を祀つてある。

### (ヘ) 政岡の墓

驛の東十五町。孝勝寺内にある。政岡の事蹟は普く人の知る所である。

これらの名勝を一巡するのに、半日を要する。俵賃二圓内外。旅館は、仙臺ホテル、針久支店、陸奥ホテル。奥田旅館、中村屋其他。

## 蒙古の碑

岩切驛（上野驛より四圓三十七錢）の南二十八町。一古碑であるが來歴は詳でない。こゝに、奥州三觀音大悲閣がある。坂上田村麿の建立である。



## 鹽釜神社

鹽釜驛（上野驛より鹽釜迄四圓三十八錢）から表坂迄十町。（俵賃二十錢）表坂百九十餘級の石段を登ると、隨身門、正門がある。正門内に正宮がある。國幣中社で、奥州屈指の大神である。

神まうで云ふ。

志波彦神社は元岩切村冠川の畔にあつたのを、明治十七年に鹽釜神社の別宮に遷座になつたのである。元鹽釜神社の末社で、鹽釜社記に依れば、祭神志波彦神は鹽釜大神附屬の神と言はれてゐる。その系統は明でないが、鹽釜神に附て煮鹽の功を助けた神であるといふ。

鹽釜神社の祭神は鹽釜神である。別宮に鹽土老翁大神、左宮に武甕槌大神、右宮に經津主大神が祀られてゐる。鹽土老翁は煮鹽の事を掌られ、彦火火出見命が御兄神の釣鉤を失

うて海邊に逍遙はれた時、尊に御勸して海神の宮へ行かしめ奉つた神である。左右の兩宮は天孫降臨當時の功神で、鹿島、香取の祭神たるは云ふ迄もない。

町の西北一森山の老杉千古の色を湛へる處、奥州一宮の稱ある鹽釜の社殿嚴然としてゐる。二百有餘の石礎を見下して、樓門の層閣は側の蟲々たる老杉と其長さを争ふかの様である。

社殿は藩主伊達綱村、吉村の造營に係り、壯麗なものである。本殿は左右兩宮に分れ、右に別宮がある。朱樓翠色映帶の美に富んでゐる。鹽釜櫻の老木は社側に、社前の文治燈籠には、「文治三年和泉三郎寄進」の文字が讀まれる。

一森山は高く東海に標出する地で、社側の岡に立てば東は鹽釜の浦から遙に太平洋の煙波を望み、東北松島灣内の絶勝を俯瞰する事が出来る。

頼朝その他の武門の崇敬が厚く、藩主伊達家は特に尊崇せられた。

絲卷太刀及黒漆太刀の各一口は國寶になつてゐる。



志波彦神社の例祭は三月二十九日、鹽釜神社は七月十日にある。此他七月六日に神釜祭がある。五日の夜神釜水替神事があつて、帆手祭、花祭と共に古例の大祭である。

早朝、鹽がまの明神に詣つ、國守再興せられて、宮柱ふとしく、彩椽きらびやかに石の階九仞に重り、朝日あけの玉がきをかどやかす、かゝる道の果、塵土の境まで、神靈あらたにましますこそ、我國の風俗なれといと貴けれ。「奥の細道」

ちはやふる神もねのひと思へばや煙たなびくしほがまの松

橋 爲 仲

大 槻 盤 溪

石壇松影曉瞰紅、來謁東方第一宮、煮海鍊鑑今尙在、干年古廟祭鹽翁。

▲旅館、鹽釜ホテル、太田屋、海老屋、日和館、宿泊料一等五圓、二等四圓、三等三圓五十錢四等二圓八十錢。

### 菖蒲田海水浴

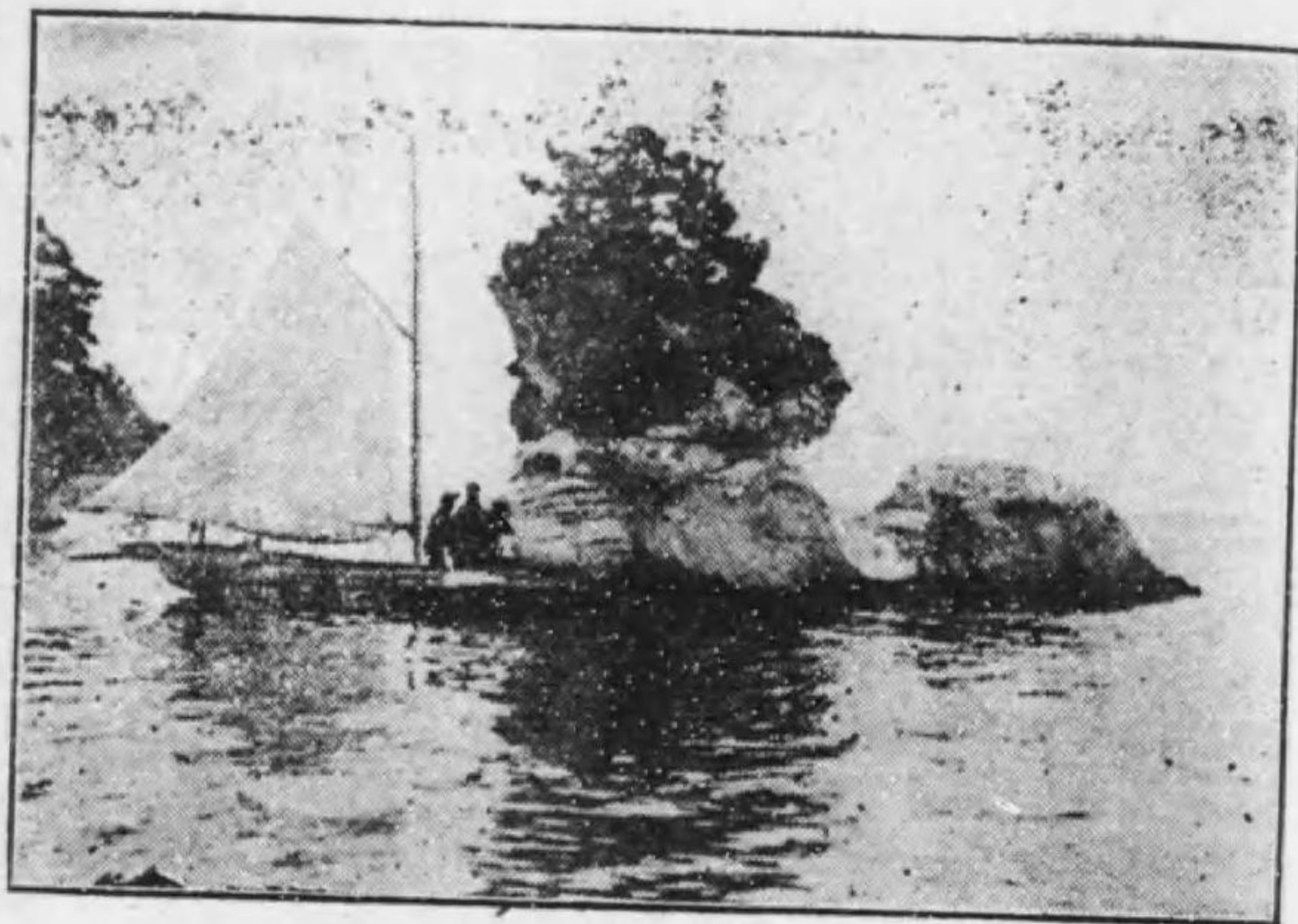
鹽釜驛をさる南一里半。眺望ヶ崎の名が存する如く、海岸一帯の風光、氣持のよいこと無量である。大東館と云ふ旅館がある。

### 松島探勝

鹽釜は、松島灣に面し、風光極めてよい。この鹽釜を出發點として松島を巡遊し、松島驛へ出るをよしとする。鐵道省が指示した松島遊覽順序は、

(一)半日の場合、鹽釜—扇谷—松島—新富山—或は此反對 (二)一日の場合、鹽釜—多聞山—馬放島—桂島—扇谷—松島—新富山—或は此反對 (三)二日の場合、第一日に(二)の行程を経て松島に一泊し、翌日富山—東名丸山—丈高森—鹽釜歸着。或は此反對 (四)三日の場合、(一)鹽釜起點第一日、貞山堀沿岸—松ヶ濱—菖蒲田—高山—花淵君ヶ岡—澤尻—多聞山—東宮を経て鹽釜に歸る、第二日 馬放島、桂島、野口島—寒風澤—大高森—東名丸山を経て松崎泊、第三日 富山—新富山—松島—扇谷—崎





松島千貫島

至る内海の稱にして、此間所謂八百八島の群島點々として灣上に碁布星散す。島嶼は皆翠松を頂き縹渺たる蒼波遠く天外に接す。眞に是れ滿目悉く詩景試にこの間に舟を浮ぶれば風景の變化極まりなく、人は送迎に疲れて遂に畫中の人たるに了らん、風光の美、當に天下の第一勝たるべく、「衆美歸松島、天下無山水」の句その偶然にあらざるを知るべし。若し夫れ個々の島嶼に至りては大なるものは山の如く、小なるものは岩の如く、或は虎の嘯くが如きものあり、龍の幡まるが如きものあり、千狀萬態得て記すべからず。而して宮古島、寒風澤島はその大なるものなり。雄島、籬島、經島、福浦島等は其の著はれ

山—獅子崎を経て鹽釜歸着 (ロ)松島起點 第一日 馬放島—野々島—桂島—寒風澤—大高森—東名丸山を経て松島泊、第二日 富山—新富山—扇谷—崎山—獅子崎を経て鹽釜泊 第三日 貞山堀沿岸—松ヶ濱—菖蒲田—高山—花淵—君ヶ岡—東宮—澤尻—多聞山を経て鹽釜歸着。和船一日雇切五人乗五圓 半日三圓五十錢、沖船は鹽釜驛近くより出で松島鹽釜間三等片道三十二錢、往復五十五錢、二等片道五十二錢、往復八十六錢、一等片道七十錢、往復一圓十六錢、松島桂島 片道二十九錢、往復四十七錢、夏季中は大鷹森扇谷に寄航する。モーターボートはパークホテル、松島ホテルに備へてある。松島驛からは松島海岸まで東一里餘、俵賃三十五錢、新富山を経て四十錢富山を経て一圓十錢、乗合自動車海岸まで五十錢、貸切三圓。

名勝地誌云ふ

松島 鹽釜より灣頭に浮ぶれば、日本三景の一なる松島の奇景は忽ち眼前に映じ來る。松島灣とは鹽釜の灣頭たる千賀ノ浦の東代ヶ崎より、松島村磯崎を環りて東北丸山岬に



たるものたり。みやこ島、内裏島、化粧島はその名の雅なるものにして、ひるね島、子育て島親に勸當裸島の如きはその名の痴なるものなり。浦には梅ノ浦、霞ノ浦、竹浦、溝浦等あり。岬には觀月崎、象鼻崎、寶珠崎等あり。古來來りて清遊を試むる者多く、里人は又七浦、八崎、八島の勝を唱ふ。然れども八百青螺の灣内、豈八勝八景のみならんや、接せる者悉く景なり到る所皆勝地なり、然れども勝中の勝を探らんと欲せば、遠く舟を舳して宮戸島、寒風澤島の附近に到らざるべからず。此の邊の島嶼皆怪巖奇石の相倚て成れるもの而もその配置宜しきに適ひ、生ふるところの翠松各々趣を殊にして倒まに影を水中に垂るゝもの、實に匹を名畫に求むる能はず。普通旅人の遊子を導くは鹽竈より舟を舳し弧帆に梅風を孕ませ松島村に至るにあれど、此の唯舟を行るに便あるのみにして、松島長中の壯觀を盡く求るものにあらざるなり。——要するに舟を舳して灣内を回れば、千狀萬態の變化を極めて形勝の地數へ難きものあるべしと雖も、然れども皆局部の景を賞し、一小部の勝に接するに過ぎず。松島の如き面積の廣濶なる雄大の景

色は之を一瞬に收めて全景の美を賞せんと欲するには、須らく高きに登りて觀ざる可らず、是に於てか松島四大觀あり。

四大觀 所謂四大觀とは富山、扇谷、多聞山及び大鷹森是なり。近來は更に松島村後の新富山を加へて五大觀と稱す。富山最も著はれ、扇谷之れに次ぐ。是れ行くに便多ければなり。然れども大觀としては大鷹森を推さざるを得ず。

富山 富山は東灣の北松島村字手樽に在り、全山巨杉老檜森然として繁る。この間山麓より磴道を傳うて上ること數町にして、山上に達す。山上に大仰寺あり。南に面して開く。一望豁然松島十里の碧灣は恰も一泉池を觀るに異ならず。八百の青螺點々また指摘し得べし。古來松島の勝を説くもの、松島の景は松島にあらずして富山にありといふは蓋し眞なり。昔は藩主も屢々臨みて之を賞し、明治九年東北巡幸の時には親しく鳳轡を任せ給へりといふ。

扇溪 富山に次ぎて名のあるものは扇溪なり。扇溪は松島村と鹽籠町との中間にあり。



丘を熊耳峯といふ。峯頭に無量寺あり。その達磨堂はまた最も名高きものなりしが、前年火災に罹りたりとて、今は僅に茅屋の庵室に片影を止むるのみ。

多聞山 は灣の南端代ヶ崎に對して馬放島上にあり。外灣の茫々たる灣内の靜波とを共に相見るを得可く亦特別の趣味あり。

▲旅館——パークホテル、觀月樓、白鷗樓、同別館、東洋ホテル、宿泊料は二圓八十錢からあるが、大體に於いて一泊四圓か五圓かゝると見なければならぬ。

## 金華山

金華山は鹽釜より海路二十八哩。牡鹿半島の東端に突出した島嶼で、風景の雄大にして男性的な所に他に得難き特徴がある。島の最高點は千四百尺、周圍五里。島内は密林鬱々としてゐる。鹿あり猿あり、旅人を慰める。

夏は海水浴によい又天幕生活によい。

こゝへゆくには、二十五人以上の團體の場合には、鹽釜から汽船で金華山へゆく。けれ共二十五人以下の時は汽船は金華山へ寄港しない。で普通の場合は、鹽釜から鮎川迄汽船でゆく。(約三時間二等往復一圓六錢) 鮎川から十八町歩いて山島へ出で、こゝから渡船で金華山へわたる。(渡賃往復十八錢) 又松島から石巻迄汽車でゆき(二時間七十六錢) 石巻から鮎川迄汽船でいつてもよい。(三時間、五十五錢)

雅致に富んだ瀧ノ屋の渡をわたつて八町にして、黄金山神社である。金山比古、金山比賣の命を祀る。金持になる神様として知られてゐる。「みちのくに黄金花咲く」と云はれた所である。こゝから石段を下ると社務所があり、こゝで旅人を泊めてゐる(此島には旅館がない) 献膳料を出せば心よく泊めてくれる(小献膳三圓以上、中献膳五圓以上、大献膳十圓以上) 神社へ御詣りしたらば、先達に導かれて、裏山廻りをするをよしとする。行程約四里。四時間はかゝる。裏山廻りで見るのは、大海祇神社、(山の絶頂千四百尺の所にある) 黄金石、天柱石、芍薬園、千疊敷、大宮崎、仁王崎、燈臺、鶴岡公園等である。



### 吾妻山麓の温泉

吾妻山麓には、温泉が多い。高湯、微温湯、五色、新五色、滑川、姥湯、小野川、の諸温泉が夫れである。秋の紅葉狩を兼ねて、これらの温泉めぐりをやるも一興である、又高湯、微温湯をへて、土湯、岳の温泉に出で、二本松へ出るもよい。土湯から野地、横向、中ノ澤の諸温泉をめぐつて川桁へ出るもよい。

### 高湯温泉

奥羽線庭坂驛（福島驛乗替福島驛より十三銭）より西二里。駄馬の便がある（一頭人夫付二圓五十銭）吾妻山の中腹二千三百尺。硫黄泉で皮膚病、リユーマチス、痔疾に効がある。旅館吾妻屋、玉子湯、信夫屋、安達屋等、自炊制である。宿泊料は一圓五十銭以上。

### 微温湯温泉

庭坂驛より西南三里半。高湯温泉から一里半。又は高湯へ行く途中の姥堂から左折して二里で達する。（此道は數年後には、立派な道となるらしい）吾妻山の中腹海拔二千五百尺。三面は山、一方は展いて信夫、安達の沃野を眼下に見渡す。紅葉美は、天下に誇るに足る。

酸性泉、眼病、脳病に効がある。旅館は二階堂一軒。（自炊制度、一日一圓二三十銭ですむ）俗塵を離れた避暑地として之を推奨する。

### 微温湯より土湯へ二里

土湯から岳温泉をへて二本松へ五里

吾妻山の噴火口へ一里半。夫より一里で五色沼へ出られる。山中の勝地を見て歩くのも面白い。



### 五色温泉

板谷驛（福島驛より三十五錢）より三十町。（駕籠賃一圓五十錢）不忘山の中腹三千尺の地である。秋の紅葉は特によい。冬は絶好のスキー場である。

アルカリ性鹽類泉で、婦人病、濕疹、貧血に効がある。子供の出来ない婦人が入ると必ず子供が出来るさうだ。旅館宗川館（宿泊料一圓五十錢以上）

### 新五色温泉

板谷驛より三十三町。アルカリ性鹽類泉で、五色と同じ効能がある。旅館は佐藤館、子金屋（宿泊料一圓五十錢）絶好のスキー地である。

### 滑川温泉

峠驛（福島驛より四十錢）の西南一里。板谷の山中にある別天地である。炭酸泉で、胃腸病、脚氣、リユーマチスに効がある。附近に大瀧、布引瀧、龜瀧等がある。旅館福島屋（宿泊料一圓五十錢以上）

### 姥湯温泉

峠驛より西南二里。滑川温泉と同じく、徒歩でゆくののである。（手荷物は一貫目迄八錢で運搬してくれる）吾妻山の北谷にある。この邊一帶屈指の紅葉郷である。炭酸泉で、胃腸病、脚氣、リユーマチス等に効がある。旅館は樹形屋、自炊制である。

### 小野川温泉

米澤驛（福島驛より五十八錢）の西二里十町。鹽類泉で、消化器病、婦人病、皮膚病に効がある。こゝは交通の便がよいので繁盛する。（俵賃一圓五十錢）旅館も小野川ホテル、登



府屋、梅屋、山川屋其他十數軒ある。宿泊料は一圓五十錢以上。

### 高湯(白布)温泉

米澤驛より東南四里半。(俵賃五圓)前に鬼面川、後ろに吾妻山の翠巒を負ひ风光絶佳である。鹽類泉で、子宮病、皮膚病胃病に効がある。

旅館東屋、西屋、中屋、(宿泊料一圓五十錢以上)

## 磐越西線

— 會津附近 —

### 熱海驛の二温泉

熱海驛(郡山驛より二十五錢)前に熱海温泉(旅館一カホテル、松本屋、吉野屋)又驛の西北八町に、高玉温泉(旅館は蓬萊館、玉屋信濃屋)がある。共に鹽類泉で、消化器病に効がある。

### 磐梯諸温泉

磐梯諸温泉は、俗化してゐない所に無限の價値がある。平民黨學生には先づ以て好適當の所である。宿泊料は一圓以上、名物は湯ノ花と挽物である。川桁驛で下車して、こゝを



元として、諸温泉めぐりをする。上野驛から川衍驛迄七時間二十六分、三圓三十四錢。

(イ)川上温泉

川衍驛より北三里十町、樋ノ口迄耶麻軌道に乗る。(四十分、二十錢)樋ノ口から温泉迄一里十町は、車馬の便がないから歩かねばならぬ。

磐梯登山の北口に當る。鹽類泉、リユーマチス、子宮病に効がある。旅館は玉川屋、湯本屋、

(ロ)磐梯温泉

川上温泉から一里。(翁島驛から二里)海拔四千尺、冬は、温泉宿は家を鎖して休業する。硫黄泉で、梅毒に効がある。旅館は中ノ湯、上ノ湯の二軒ある。

(ハ)中ノ澤温泉

川衍驛より北四里六町。大原迄耶麻軌道による。(四十錢)。大原から温泉迄八町。硫黄泉で胃腸病に効がある。旅館西村屋、花見屋、白木屋。

(ニ)沼尻温泉

大原迄耶麻軌道でゆき徒歩一里七町。中ノ澤から一里。安達太郎山の背面噴火沼の下にある。硫黄泉、胃腸病、梅毒に効がある。旅館田村屋、花見屋。

(ホ)横向温泉

大原から温泉迄一里十一町。炭酸泉で、胃病、婦人病、神経痛に効がある。此所から三里で土湯温泉へ出る。旅館瀧川屋。

(ヘ)押立温泉

翁島驛(上野驛より三圓四十四錢)より十八町。炭酸泉で創傷に効がある。旅館は上ノ湯、鷺ノ湯

猪苗代湖

上戸驛——上野驛より

三圓二十九錢

猪苗代驛——同

三圓三十九錢



翁島驛——同

三圓四十四錢

猪苗代湖は周廻十六里、磐梯山の噴火に依つて、恰かも二十一年の噴火で檜原湖が出来たのと同じ具合に出来たのである。水面は海拔千七百尺で、一大高原湖である。湖岸は絶好の避暑地である。上戸驛、猪苗代驛翁島驛の何れかで下車して、舟遊を試みると面白い。

### 磐梯登山

猪苗代から登るに三つの道がある。

東 口——土津神社をへて 一里十五町

西 口——押立神社をへて 二里半

北 口——川上温泉をへて 三里半

海拔六四八〇尺。一に會津富士と云はれ、「會津磐梯山寶の山よ、笹に黄金がなりさがる」

の俗語と共に會津人の誇りとする所である。大磐梯を主峰とし、赤植、櫛峰、小磐梯、の四峰に分れてゐる。この群峰に圍まれたる中の沼の平は舊事の噴火口である。

明治二十一年七月十五日に小磐梯が破裂した。其噴火によつて噴出した土石の爲めに、吾妻川、細野川、小野川、小倉川、中津川の下流が塞閉せられて、水をせき、檜原、小野川、秋元の三湖が出来た。

大磐梯には、磐梯明神を祀り、毎年六月十五日に參詣する者が多い。

### 東山温泉

會津若松驛（上野驛より三圓六十八錢）から一里十五町。（俵賃九十錢、乗合自動車賃七十錢）

四面青巒に圍まれ、西の一方がわずかに開いてゐる。温泉の中央を湯川の清流が流れてゐる。古來有名な温泉で、奥羽三樂境の一で、遊樂の境である。靜養を目的とする者には



不適當である。湯川に沿ひて幾多の瀑布奇巖あり。その重なるものを、雨降瀧、傘巖、伏見瀧、金壺瀧、屏風岩等がある。旅館白瀧、不動瀧、新瀧、二八屋其他、宿泊料三圓以上である。

### 會津若松の名勝

若松は會津盆地の中心にある一都邑。盆地の四面に山をめぐらし、別天地をなしてゐた蘆名、蒲生、上杉、加藤の諸侯相次いで之れに居り、威を東北に振ふた。保科正之二十三萬石の封を此地に受けて以來王政維新に至つた。戊辰の役、王師に抗し、天下の大軍を一手に引受け孤軍奮闘の末城つひに陥つた。

會津塗、會津焼を名産とする。

旅館は清水屋、伊勢屋、大阪屋、餅屋、湊屋等。

(イ)若松城址

驛より二十五町。市の南端湯川に臨む所に殘壘尙存し、うたゝ往時を追懷せしめる。

(ロ)飯盛山

驛より二十五町。白虎隊の少年十九勇士が、刀折れ矢盡きて討死した所である。其墓や碑がある。こゝに安政年間所建の榮螺堂がある。

會津誌云ふ。

白虎隊の碑は勿論、榮螺堂、宇賀神堂などがあつて、山中一帯の櫻樹、紅葉、春秋の眺め絶えず人々絡繹として年少殉難士の靈魂を弔するのである。實に山上からは若松の市街一瞬の下に見えて古城はやゝ南西に偏しておる。白虎隊の碑は山腹にあつて、石柱の靈門には「精忠貫日月」、「勁節凌風霜」の十文字を左右に刻し、中に高さ八尺幅四尺の碑がある。篆額は舊藩主故松平容保公の書、文は山川大藏として當年の勇名を馳せた故男爵山川浩氏の選である。五百餘字悉く白虎隊並に戊辰役の顛末を記したもので、讀むものをして流涕歔歔往時を追懷せしめて停回顧望去る能はざらしむるのである。殉難十



九士の氏名年齢は左の如くである。

井深茂太郎(十六)	石山虎之助(十六)	伊藤俊彦(十七)
石田和助(十六)	池上新太郎(十六)	伊藤悌次郎(十七)
林八十次(十六)	西川勝太郎(十六)	津川喜代美(十六)
津田拾藏(十六)	永瀬雄治(十六)	野村駒四郎(十七)
築瀬勝三郎(十七)	築瀬武治(十六)	間瀬源七郎(十七)
有賀織之助(十六)	安達藤三郎(十七)	篠田儀三郎(十七)
鈴木源吉(十六)		

又松平容保公及山川浩氏の弔歌は並びに石に刻して存してある。

いく人の涙はいしにそぐともその名は世々に朽じとぞ思ふ 源 容 保

くもりなき月日は照せ國の爲めさらしよかばねくちはつるとも 山 川 浩

傍に榮螺堂と稱する圓通の三匝堂がある、寛政八年の建立で三層にして六稜を有し、高

八間半下の直径三間半漸々に盤旋して昇り、又漸々に降り恰も榮螺の殻に似て居るので此の名稱を附したものである、此の西に並んで宇賀神堂があつて白虎隊十九士の木像と、萱野權兵衛の木像とを安置してある、又飯盛山の下には太夫櫻がある。昔或る遊女が觀櫻の折故あつて殺されたので、時人之を憐み櫻を墓畔に植ゑたもの即ち是れであると傳へられてある。

### 柳津虚空藏

若松の西六里半。(馬車賃二圓五十錢自動車賃切二十圓)只見川の流に沿ふ山間の一仙境である。この山間百五十戸の人々は、一つの圓藏寺があるが故に生活してゆけるのである。圓藏寺は、臨濟宗妙心寺派に屬し、弘法の佛弟子徳一の建立である。この寺の虚空藏は、常州村松、房州清澄の虚空藏と共に日本三虚空藏と云はれ、信仰の的となつてをる。會津地方では、男女十三歳になると必ず參詣して、開運出世を祈ることになつておる。之



を十三講又は十三詣りと稱してをる。三月十三日が縁日である。又七日堂と稱し、正月七日には牛王の墨影を得んとして裸體となつて挑みあふ習慣がある。歸りは野澤驛へ出るがよい。驛迄三里半。車馬の便はない。

## 高 崎 線

— 秩父鐵道 —

### 熊谷堤の櫻

熊ヶ谷驛（上野驛より二時間九十六錢）の南二町。櫻花一里に續き、其美觀は小金井と甲乙をつけ難い。四月十日頃から十五六日迄が見頃である。又驛の北西八町に熊谷寺がある。淨土宗、惠心僧都作の阿彌陀佛を本尊としてをる。寺域は熊谷次郎直實が終焉の地である。

### 龍泉寺觀音

秩父鐵道大麻布驛（上野驛より一圓八錢）より八町、幕末の偉人渡邊華山の陰棲地であ



る。眺望絶佳である。

### 畠山重忠の塔

武川驛（上野驛より一圓十七錢）の南一里（永田で下車すれば九町）畠山氏の館址で重忠が呱呱の聲を上げた所。今重忠の影塔がある。近くに重忠が再興した満福寺がある。

### 寄居の名勝

寄居（上野驛より三時間、一圓三十七錢）は、人口四千三百、荒川峡谷の口にあり、生繭、絹、百合根を産する。

### （イ）鉢形城址

驛の西南七町。北條氏邦の居城であつた。天正十八年豊臣秀吉の軍に圍まれて落城した。

### （ロ）象ヶ鼻

驛より十町。寄居町營の公園となつてゐる。此邊鮎獵に適してゐる。

### （ハ）小前日梅林

驛より八町。梅の名所である。

### 花山の躑躅

波久禮驛（上野驛より一圓四十六錢）から頂上迄一里、躑躅の名所である。

### 鬼石と三波川

本野上驛（上野驛から一圓六十二錢）の北方二里に鬼石町がある。こゝから一里にして三波石の奇勝がある。神流川と三波川と合する邊に青質白理の巨石が磊々として立つてゐる。一見の價値は十分にある。（本線本庄驛で下車し、兒玉迄電車でゆき夫より鬼石迄馬車



の便がある。

### 城峰山(城峰神社)

鬼石町より二里。神流川の流に沿ひ、眺望頗るよい。日本武尊東夷征討のみぎり、この山に登り山頂に躬ら矢を納め賊徒平定の由を和州神武帝の御陵の方を拜しつゝ奉告せられた。これが當山の濫觴であると云はれてゐる。當村矢納の地名は、この故事に縁由してをる。其後藤原秀郷も平將門の平定を當山に祈つたと云はれてをる。山内に桔梗が多いが決して、花を開かない。夫れは、將門の娘桔梗ノ前が戦敗れて臨終の際怨語せしを無心の花が憐れ感じたが故であると云ひ傳へられてをる。今本社の社格は郷社である。(大山祇命を祀る) 背後の山頂に奥ノ宮があり、そこからの眺望は頗るよい。

この地は春の櫻、秋の紅葉の頃がよい。夏は避暑地である。

當社は火難盜難をはじめとして、其他の災害に靈驗あらたかであると云はれて俗信

の的となつてゐる。夫れは祭神大山祇命の神使たる靈犬大口眞神の威徳によると云ひ傳へられてをる。秩父三峰も、神の御使ひは靈犬(山犬)だと云はれておる。

### 長瀬(秩父赤壁)

上野驛から寶登山驛迄三時間四十分、三等で一圓六十六錢である。驛より二町に長瀬の奇勝がある。(旅館長生館) 川には鮎多く一日の清遊に適する。(國神驛で下車して寶登山へ出るもよい) 遊覽船貸切一時間十二人乗三圓。長瀬、波久禮間四里の川下りは約二時間、貸切八人乗八圓である。

驛前より六町にして、寶登山神社がある。神武天皇を奉祀し、境内幽邃の境である。(櫻樹多し) 又驛より八町(國神驛より三町)に、秩父遊園地がある。園内にテニスコートがある。鏝物植物の標本陣列所がある。



### 秩父神社

秩父(大宮)驛(上野驛より一圓九十三錢)から二町。秩父妙見と云はるゝものである。式内の古社で、崇神天皇の朝の鎮座である。武田信玄の兵火にかゝり社殿悉く烏有に歸したが、天正年間徳川家康が之を再築した。境内幽邃一納涼地である。社殿の龍虎は左甚五郎の作である。

### 武甲山

秩父驛の南一里。海拔四千四百尺の峻峰である。登山口は、東口、南口、橋立口、秩父口とある。頂上迄五十二町。藏王権現熊野三社の祠あり。山頂の風光雄大である。武甲山麓に石灰石採取場がある。平均一日四百噸宛を採取してをる。

### 橋立観音の鐘乳洞

秩父鐵道終點影森驛より數町。観音堂の後ろに、一大鐘乳洞窟がある。約三十分間で一巡することが出来る。



秩父三峰の奇勝

### 三峰神社

影森驛より四里半。途中強石迄三里半は馬車自動車の便がある。途中荒川上流の溪谷に沿ひ風好絶佳である。強石から大達原のトンネルをくゞり、登龍橋より第二鳥居をくゞりて山に入

る。坂路一丁毎に石標がある。五十二町の石標をくゞりて隨身門がある。夫れをくゞれば本



社である。

景行天皇の朝、日本武尊の創建だと云はれてをる。武州屈指の名社で、白衣をまとふて登るもの年々三萬と稱せられてをる。本社傍らの社務所で、御籠り料をとつて泊めておる。一泊一圓二十錢位である。

本社の東南約三十町、妙法岳の山頂海拔四千四百尺の高所に奥ノ宮がある。こゝから雲取山へ登るもよい。

三峰のかへりに大日向山に太陽寺をおとすれるもよい。臨濟宗の古道場である。

### 中津川の仙境

荒川の水源地、秩父の最奥である。三峰山下の大瀧から六里。行路頗る難である。秩父に遊ぶものは、中津川に至つて、始めて山水美を語る事が出来るのである。廣袤五六里の間戸數僅かに三十。

秩父の美は森林美である。

山々峰々を登つて見なければ、眞に秩父を語ることは出来ない。秩父の山登りについては拙著山めぐり(博文館發行を見られたし)



## 信越線

### 大信寺

高崎驛（上野驛より三時間十四分一圓五十五錢）から十町、境内に駿河大納言の墓がある。この他高崎で見るべきは、高崎公園、清水観音等である。

### 上州諸温泉

#### 伊香保

伊香保は、榛名の東腹二千八百尺の高處にある。草津と共に海内屈指の名温泉である。前に吾妻川を隔て、利根、吾妻兩郡の諸嶺を眺め風光絶佳である。暑をさくるによく、又紅葉狩によい。

上野驛から澁川迄汽車でゆく。（一圓八十六錢）澁川驛前から電車で伊香保へゆく。（五十五錢）上野からで、五時間かゝる。（前橋からも高崎からも澁川へ電車がゆく）

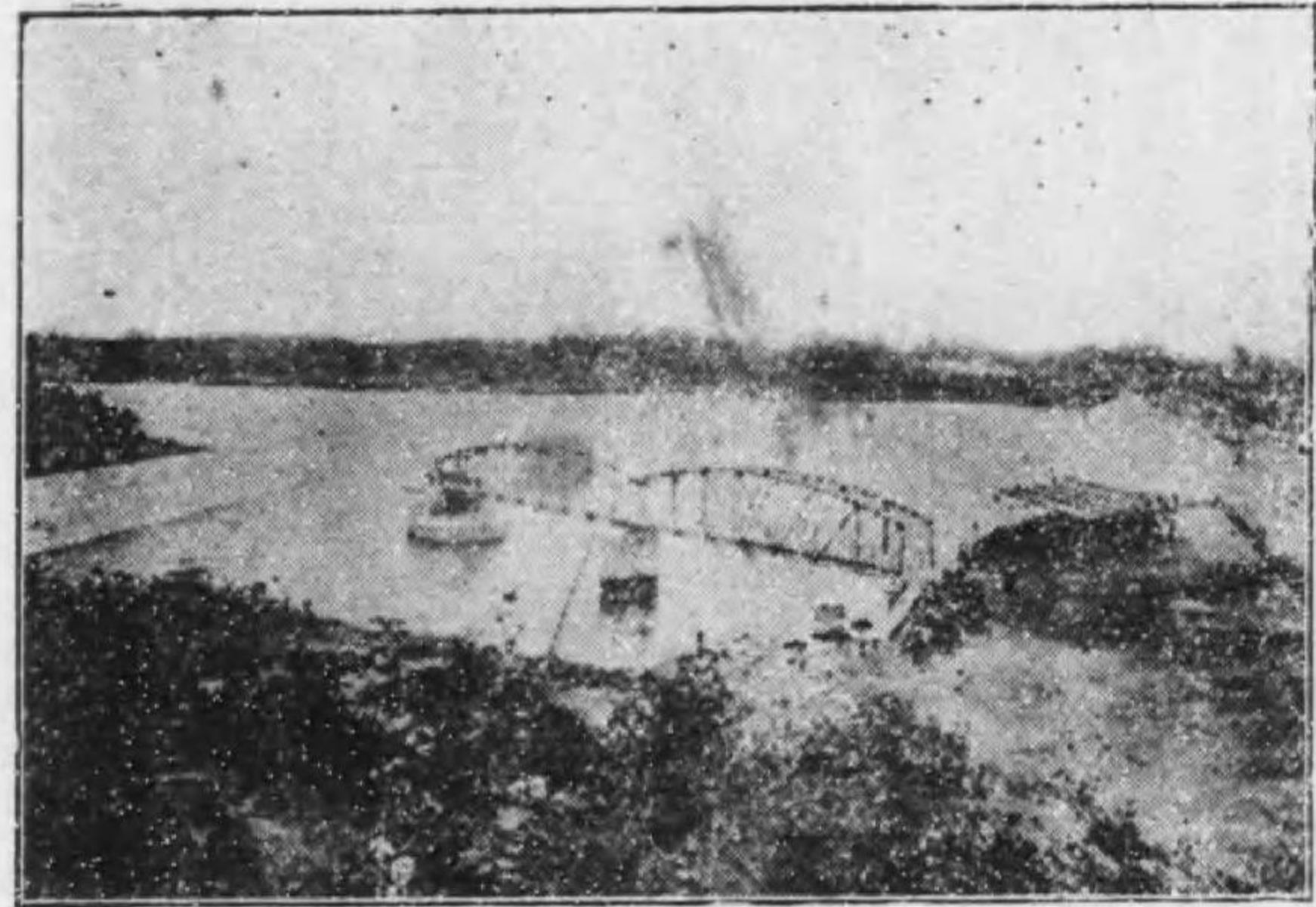
先年祝融の災にかゝつたが、今では全く回復してをる。町を貫く通路は階段の様に石段で刻まれ、屋並は層一層と漸次高くなり、一樓は一館の屋上に聳え、一舎は一塵の棟に軒する有様である。

温泉宿は數十軒ある。特に、木暮旅館、蓬萊館、仁泉亭、福一樓、横手館、香山樓が有名である。室代一週間四圓以上食事附とすれば一日二圓五十錢以上。特に香山樓は、平民的ではあり、三階樓上から赤城其他の連山を見渡す風光は雄大である。

鹽類性含鐵泉で、貧血病、消化器病、子宮病に效がある。大正十三年七月中の滞在客延人員は二萬五千九百七十三人、外人二百二十九人であつた。こゝで見るべきは伊香保神社、湯元、物聞山、辨天瀧、大瀧等である。

伊香保温泉案内云ふ。





景の畔湖名榛

【温泉湧出の起源】 伊香保温泉の湧出起源は、其年代を詳かにするに由ないが、口碑に據れば人皇第十一代垂仁天皇の御代には、既に温泉湧出したるは疑ふまでも無いが、後西院天皇寛文六年より明治十一年三月（二百年前）に至る間前後九回火災に罹り、全村焦土と化して、明記古書類悉く烏有に歸し、之れを詳かにする事が出来ぬ。

乍併、萬葉集、古今集等に伊香保嶺、伊香保沼等の文字散在し、或は文明十八年（四百年前）堯惠法印此地に來浴すと北國紀行にあり、又文龜二年（四百年前）連歌師宗祇宗近も此地に療養すと、宗祇終焉記にあるを以て、此等を考證するも、既に四五百年前

には温泉場として、人口に喰食せることは、一點の疑を入れる可き餘地ない明瞭の事實である。然れども、其時代は現今の湯元たる地に、纔かに村民が形ばかりの浴舎を設備して病者の來浴に任かせたに過ぎぬ。而して其の靈驗の顯著なのは戰國時代に於て、負傷者の來浴を増して自然の繁榮を招き、天正四年、時の領主武田氏から土地を下賜されて現在の位置に轉じ爾後三百餘年の星霜の間、時運の推移に連れて轉變又轉變今日に至つたのである。

▲温泉は、榛名の一峰ニツ岳の東北麓から噴出してをる。近來湧出量は減じた。

▲榛名湖迄ゆけば、スキーもスケートも出来る。

▲伊香保の紅葉は天下に冠たるものがある。紅葉狩は、榛名湖迄奮發してゆかねばならぬ。

▲名物——木細工、蔓細工品、鑛泉煎餅、栗羊羹、香山椒。



## 榛名山

伊香保から榛名神社迄二里二十五町。乗馬及び山籠の便がある。榛名湖の風光は絶佳である。榛名火山の火口原湖である。湖面は海拔一〇八三米、形状は四角形で、最深點は十四米突である。(湖齡は既に老耄の域に達してをる)二十年位前に鱒を入れてから今では鱒がとれる。湖畔亭では鱒の巧いのを食べさせてくれる。

湖の左岸から小坂を下り、天神峠に達するとそこに、榛名神社の鳥居がある。こゝから神社迄十八町。榛名山は、赤城、妙義と共に上毛の三山と云はれ、海拔四千八百尺である。

温泉めぐり云ふ。

榛名は上毛の三山の中では一番浅い。標式的火山の研究としては、赤城と共に學生達の修學旅行などには持つて来いであるが、さう大した人の心を惹くやうなところではな

い。しかし、次手に行つて見るのも亦わるくない。大抵は爪先上りで、一里半ほど行つてから十町ほど急に登るところがあるが、決して日光の舊道の峻しきの半分ほどもないそこを登り終ると、所謂萬葉の歌にある榛原で少時の間背の低い榛の林が連つてそれがひろい秋は草花の亂れ發く高原につゞいてゐる。この間が十二三町、やがて榛名湖の水光がちら／＼と路傍に見え出して来る。

榛名湖は山の湖水としては浅すぎる。綺麗すぎる。雫秀とか、幽邃とかいふ感じは何處でも味ふことが出来ない。雲の笠涌なども見ることが出来ない。これと云ふのも、山に樹木が少いたためだらう。しかし湖畔亭あたりで、欄干に凭りながら、靜かに湖の清漣に對するのは興味を惹かないでない。こゝから榛名の神社のあるところまで十二三町に過ぎない。

榛名は昔、修驗道できこえたところで、堂宇なども非常に多かつたといふことである。その持つた奇岩、繪葉書などによくある奇岩は、妙義に比べると、とても比べものには



ならないほど低級だが、それでも樹が多いので感じはいくらか幽邃である。夏も蚊が  
ないので、學生などが避暑にやつて来るには好い處である。

### 澤渡温泉

澁川から中之條迄自動車でゆく。(一圓七十錢)又は澁川から鯉澤迄電車(十一錢)でゆ  
き、鯉澤から中之條迄馬車でゆき(七十錢)更に中野條から澤渡迄馬車でいつてもよい。(七  
十錢)

海拔二千三百尺、草津の湯爛れを治すによいと云はれてをる。無色透明の鹽類泉で、リ  
ューマチス、皮膚病、胃腸病によい、旅館丸本旅館正永館新叶屋萬屋の四軒、宿泊料二圓  
以上。

### 四萬温泉

澁川から中之條迄の徑路は、澤渡温泉と同じである。中之條から四萬迄四里、乗合自動  
車三圓又は馬車の便がある。(一圓)

四萬川の溪谷、二千五百尺の所にあり幽邃の境である。秋の紅葉は特によい。無色透明  
の鹽類泉で、胃病、リューマチス、皮膚病、脳病に効がある。積善館、養陵館(以上新  
湯)山口館、鐘壽館(以上山口)日向見館(以上日向見)何れも宿泊料一圓五十錢以上。  
自炊制がある。自炊制ならば一圓二三十錢ですむ。

### 川原温泉

中之條から西へ五里。吾妻川に沿うてゆく。(馬車賃一圓二十錢)自動車五人乗賃切十三  
圓、金鷄山の中腹、吾妻川の溪谷を左にして、風光の美は、關東の耶馬溪と云はれてをる  
程である。硫黄泉で、皮膚病、子宮病、胃腸病によい。草津の湯タブレを治す所である。  
輕井澤からの草津鐵道の開ける迄は、草津へゆく人は必らずこの温泉へとまつたが、今



は草津へは輕井澤からゆくの、昔の繁昌を失つた。

旅館は、敬業館、山本館、養壽館、宿泊料一圓五十錢以上。自炊制が多い。

### 磯部鑛泉

信越線磯部驛（上野驛より一圓七十八錢）の北四町。（俵賃二十錢）炭酸泉で、胃腸病、神經痛に効がある。旅館は對岳樓、磯部館、鳳來館等（宿泊料一圓五十錢以上）驛の西一里半に經津主神を祀つた國幣中社貫前神社がある。

### 妙義山

松井田驛（上野驛より四時間十五分、一圓八十六錢）下車、白雲山の中腹にある妙義町迄一里。（俵賃七十錢）山は、白雲、金洞、金溪の三山に分れ、最高峰（金洞）三千八百尺妙義町に菱屋、東雲館がある。こゝから案内人を雇ふ。

### (イ) 白雲山

三山中一番險阻であるが、眺望は一番よい。

案内料は、

妙義町より大ノ字岩迄

七十五錢

大ノ字岩より奥ノ院迄

十五錢

奥ノ院より頂上迄

一圓二十錢

### (ロ) 金洞山

中ノ岳とも云ふ。この山は石門があるので有名である。通例一泊の場合はこの山丈けへ登るのである。

妙義町より四石門をへて朝日岳迄

七十五錢

朝日岳より頂上迄

四十五錢

### (ハ) 溪山



金洞登山の途中一本杉の見晴亭を下つて、路を左にとり八町にして頂上に達する。妙義町から頂上迄の案内料は二圓。妙義の秋の紅葉は天下の美觀である。

### 輕井澤

輕井澤（上野驛より五時間半二圓九錢）は、淺間山の南方三千二百七十尺の高原で、絶好の避暑地である。外人の別荘三百以上を算し、「カルイザワ」の名は海外にまで知られてゐる。愛宕山、難山、矢ヶ崎山、碓氷峠等散歩地も多い。大正十三年八月中に於ける避暑客人員は十三萬人、外國人三萬五千人であつて、其盛況が思ひやられる。この月に於ける九州温泉ヶ岳では内地人二千二百二十人、外人二千二百六十五人、別府温泉では三萬六千三百二十四人、外人五十九人であつた。

旅館——三笠ホテル、萬年ホテル、輕井澤ホテル（一日並等十圓見當）萬松軒、窪屋、

要屋、油屋、（宿料三圓以上）。

### 碓氷の紅葉狩

碓氷の紅葉は、十月中旬から十一月上旬迄がよい。紅葉狩は左の三つの道程の中何れをとるもよい。

(一) 舊輕井澤から舊道を通つて横川に至る。

(二) 峠（見晴平）から紅葉道を通つて熊ノ平に出る。

(三) 新輕井澤から新道へて熊ノ平又は横川に至る。

碓氷の紅葉狩は、日歸も出来る。

新選名勝地誌云ふ。

碓氷峠の紅葉 碓氷嶺は上、信兩國の國界に跨る。標高凡そ三千八十八尺、往昔は横川に近き邊りに關所を設けて來往の行人を改めき。日本武尊のこの絶巖に登り給ひて、弟



橋姫を追慕せられしは史乘に名高きところ、事は載せて日本記にあり。曰く「日本武尊  
自中斐北轉、西逮于碓日坂時、尊每有顧弟橋姫之情、故登碓日嶺、而東南望之、三漢曰  
吾孀考耶、故因號山東諸國、曰吾孀國也」と。その他碓氷貞光の遺跡と稱するものあ  
り。信州舊輕井澤驛より山路二十六町の所に熊野神社あり。およそ西の箱根嶺と相俟つ  
て關東東西の二大要害に推され、さまざまの作り語のこの時に材を取れるもの多し。而  
して箱根に比してはその變化むしろ少く、交通また不便なれど、錦繡の美に至りては、  
東京近くにては、この地と日光と甲斐の御嶽とを推さざるべからず。されど、霧積の温  
泉（横川の西北二里半）の稍々人に知られし頃は此の紅葉大に都人士に唱道せられたれ  
ど、今は温泉の衰微と共に説く者漸く稀ならんとす。此の地の紅葉の盛期は毎年十月下  
旬に亘り、信州の高原は其頃既に落葉疎々たるを常とす。遊客は先づ汽車にて直ちに輕  
井澤に赴くべし。碓氷の舊道は頗る險なれば横川より登るは容易ならず。而して舊輕井  
澤より峠町に登るべし。此の眺望は平日だに天下の大觀の一なるに、紅葉の頃は、眼下

に秋の碧なる空と燃ゆるがごとき紅葉とを展開し、更に妙義連峯の黒き峻嶒を其の背景  
と爲したる爲め、實に忘るべからざるものあり。殊に此の舊道薄多く、丘陵といふ丘陵  
悉く白く秋の日に光りて、畫これを描く能はず、筆これを記する能はざるの狀あり。其  
山麓なる坂本の古驛また甚だ風趣に富めり。汽車の未だ成らざる頃には馬車、馬車鐵  
道、新道を長く渡りて、この荒涼たる古驛は旅客を以て充たされたることありしなど想  
像するも亦興なきにあらざるべし。而して横川より松井田に至り、更に妙義の紅葉を訪ふ  
も面白かるべし。徳富氏の「兩毛の秋」はこの紅葉を描きて頗る詳細を極めたり。秋季  
この地を訪ふもの、その一本を携ふるも可ならん。また同氏に「碓氷の川音」なる小品  
あり。曰く「碓氷の秋を探るとて、或年の秋の或日、獨り輕井澤を立ちて、舊道や辿  
る。碓氷の絶頂より半里あまりは、紅葉已に散り、落木寒山稀に染めたる如き翠松を點  
じて、蕭散の致可畫可歌猶下れば、滿山皆枯薄、秋老ひて山も亦白頭となりぬと覺ゆ。  
折から淺間の方俄かにかき曇り、麓は日景明らかにかき曇り、山は一點二點の、時雨



はら／＼と帽に落ち来りぬ。時雨るゝや獨り分け行く萱の山など口吟み行くに、時雨は一しきの降りまさりて、満山の薄さわ／＼と人あるが如し。傘を翳して暫し佇む程に、時雨はばつたり已み、あとの静寂警ふるに物なし。山中人自正と言ひけむ様に吾心水の如く清める時しも、何所にか一陣の清籟蕭々として起り、颯々として山中に満ちぬ。あゝこれ碓氷の川の遙かに谷底を流るゝなりき。追分節「碓氷峠の権現様よ私が爲めには守り神スイ／＼来たに長さん待てたほいお前ばかりが可愛うて朝起きなうかいなア」。

### 霧積温泉

碓氷の山中にある。横川驛の北三里半。駄馬賃五圓。微温度の硫黄泉で、火傷、腫物其他一般の負傷に効がある。秋の紅葉美は特によい。旅館は金陽館一軒、自炊客が多い。

### 小瀬温泉

草津鐵道小瀬驛から五町。淺間の東南麓、海拔三千八百尺。高原美を十分味ふことが出来る。炭酸泉で、神經衰弱、胃腸病に効がある。旅館は蓬萊館（宿泊料二圓以上）淺間山頂へ二里半。

### 草津温泉

草津は海内屈指の名温泉である。海拔四千五百尺の高度で、夏は避暑地、冬は絶好のスキー場である。輕井澤から草津輕便鐵道に乗り、終點嬭戀驛で下車する。（三時間二十分一圓三十八錢）嬭戀から草津迄馬車賃一圓五十錢。

硫黄泉で、温度百四十八度、梅毒、皮膚病、淋病、外傷に効がある。旅館は、白根ホテル、大東館、望遠館、一井館、日進館、伊勢本、細野、大阪屋、大津屋、吉田屋等宿泊料は一圓五十錢以上。先づ一日三圓はかゝると見なければならぬ。（自炊制もある）

滯在中、海拔七千尺の高峰白根山へ登るべきである。草津から三里、乗馬でもゆける。



往復六時間を要する。

名勝地誌云ふ。

草津温泉、輕井澤と草津との間の輕便鐵道半ば成りつゝあり。その里程約十二里、馬を傭ひて辛うじて一日にして至るを得べし。温泉は古來關西の有馬と併稱せられたる名湯にして、その發見は遠く皇極天皇以前にかゝり古來名僧、武將の來浴せしもの頗ぶる多し。およそ本邦温泉多くありと雖も、この温泉ほど熱氣の高く、硫黄分の多量なるはなし。村中を横流する熱湯の湯氣の盛なる人をして焦熱地獄もかくやと疑はしむ。殊に熱の湯と稱するは温泉中最も激烈なる皮膚患者の浴する所にしてこれに浴するには一に軍隊的規律を用ふ。一時これをかき交せて和かにしたる後、號令の下に一度にこれに入りまた命を待つて一齊にこれを出づ、蓋し、その熱度の酷烈にして、少しく身を動かしてだに他人に熱を傳ふるの恐れあればなり。浴槽の大なるもの甚だ多く、高大厦屋相連り、三階四階を有するもの稀ならず。且つ客を遇するの道至れり、盡せり、加ふるに空氣清

冷七月、猶ほ老鴛を聞き八月草花を開くの妙あり。

▲草津から、遊迄歩いて見るも面白い。道は頗る峻である。

### 芦ノ平の紅葉

小諸驛（上野驛より二圓三十九錢）より一里弱、淺間溪谷にある紅葉の名所である。附近には、不動の瀧がある。

### 淺間登山

淺間は、海内屈指の活火山である。登山するには、冬を除いてはいつでもさし支へない。杳掛、追分、小諸、何れから登つてもよい。案内者を雇ふことが出来る。（案内料は一日三圓見當）追分は、昔は繁盛した所だが今では衰へて淋しい所になつてしまつた。これ共避暑地としては將來望みがある。



私は、登りには、追分道を推奨する。追分から山頂迄三里十町。山頂は海拔八千二百尺。

大平氏の富士淺間名所他云ふ

追分より緩斜の廣原唯雜緣草の生ひ互れる中、僅かに認め得べき小逕を辿り、行くこと一里餘、所謂追分原是なり。本山は現活火山なれば、世人恐れて、登る者稀にして、道路は到底富士道の判然明然たるに比すべくもあらず。案内者なくんば、殆ど道を失ふべき所少しとせず。進むに従ひ、漸く松、落葉松の古木を見る。但到底富士深林の比にあらず。近年官林として、落葉松の栽培漸次増殖しつゝあり。林間縦横に幅數尺の芝地を割ぎ取り、淺渠の如き區劃をなせるもの、是れ山火事を防止する爲めなりと云へり。七時二十分赤瀧（又血の瀧と稱す）に達す。瀧高さ三丈、幅一丈許、水赭赤色を呈す、蓋し淺間南麓の血の池より流下するもの。血の池は、鐵分を含有する浮石の分解より成る。附近の人々は此水を服用せば、胃病を治し、此瀧に打たるれば、臍病を治するの効あり

として、尊崇せり。瀧の傍に、凡八疊數大の巖洞あり。口狭く奥廣がれり。予瀧水を以て顔を洗ひ、且試みに之を飲みしに、甚しく鐵澁味を感じり。案内者は、瓶を出し、此水を入れ、飲用の爲め携帶せり。赤瀧の前を近く横ぎり、崖壁を登り、十數町にして、道の左右に所謂血の池二個あり。相距ること數十間、池水赤瀧より更に深赤色なり。蓋し赤瀧は、他の溪流混入すればなり。茲に奇なるは、左右の血の池を距ること十間許にして、青池と稱するあり。甚しき藍青色を呈す、是れ硫酸鐵の溶解せるものならん。三池皆徑凡そ十五間餘、稍長圓形をなす。池の周は沮洳の草地たり。血の池過ぐれば、徑路漸く急峻、山の隅角を行くこと一里餘、落葉松の古木蜿蜒匍匐せるは、臥龍の如く、突兀として梢頭の靡けるは、虎の嘯くに似たり。登るに従ひ、樹幹愈矮縮、葉亦短く、高僅に二尺餘なるも、皮鱗岩塊の如く、壽命數十百年のもの多きが如し。實に樹藝家の流涎措く能はざる所ならん。此間往々地梨の實を得、之を喫するに、酸味甚だしく、額る渴を醫するに足る。果實の大なるものは、鶏卵大の如く、果皮綠色に赭褐色を帯ぶ。